

令和 7 年 度

事業報告

日本赤十字社滋賀県支部

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人 道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公 平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中 立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独 立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉 仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単 一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

目 次

はじめに	1
I 支部事業・一般会計決算概要	2
1 評議員会並びに監査等の実施	2
(1) 評議員会の開催	2
(2) 監査委員による監査の実施	2
(3) 監査委員による赤十字施設の視察	2
(4) 日本赤十字社理事会・代議員会等への出席	3
(5) 支部名誉職員名簿	6
2 全国赤十字大会	7
3 会議・職員研修会の開催	7
(1) 会議の開催	7
(2) 地区分区赤十字事務打ち合わせ会	8
(3) 職員研修会の開催	9
4 会員増強運動の推進と実績	9
(1) 会員増強運動の推進	9
(2) 令和7年度活動資金募集実績	9
(3) 活動資金募集にかかる主な取り組みと実績	11
(4) 企業・団体等とのパートナーシップ構築の推進	12
(5) 赤十字会員数	13
(6) 有功章等受章件数	13
5 災害救護活動	13
(1) 災害救援物資および弔慰金の配分状況	13
(2) 義援金、海外支援金の受付状況	14
(3) 救護資機材の整備	14
(4) 訓練および研修	14
(5) 救護員の登録状況	16
(6) 救護資材整備状況および救援物資備蓄状況	16
6 赤十字救急法・健康生活支援講習等の講習普及	17
(1) 救急法	17
(2) 健康生活支援講習	17
(3) 幼児安全法	17
(4) 水上安全法	17
(5) 指導員の養成	18
(6) 講習指導員の研修	18
(7) 各種講習指導員数	18
(8) 防災教育の普及	18
(9) 滋賀県安全法指導員協議会	18

7 赤十字奉仕団	19
(1) 設団状況	19
(2) 地域赤十字奉仕団の活動	20
(3) 青年赤十字奉仕団の活動	25
(4) 滋賀県防災支援赤十字奉仕団の活動	26
(5) 滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団の活動	28
(6) 個人ボランティア	29
8 青少年赤十字	30
(1) 加盟校の状況	30
(2) 青少年赤十字指導者協議会郡市支部長会の開催	31
(3) 本社およびブロック主催の講習会、研修会開催状況	31
(4) 支部主催のトレーニングセンター開催状況	31
(5) その他の会議・行事等	31
(6) 青少年赤十字メンバー・加盟校応援プロジェクト事業	33
(7) 青少年赤十字機関紙「JRC しが」の発行	33
9 看護師の教育	33
10 国際活動	33
(1) 「NHK 海外たすけあい」キャンペーンの実施	33
(2) 令和7年度第4ブロック合同国際人道法普及研修への参加	34
11 赤十字思想の普及	34
(1) 本社作成の広報資材の配布	34
(2) 支部作成の広報資材の配布	34
(3) 主な広報活動	34
(4) 広報資材の使用・貸出し	36
(5) 赤十字体験バスの開催	36
(6) 「ACTION！防災・減災」の実施	37
(7) 滋賀県赤十字血液センターとのイベント共同企画	37
(8) 大阪・関西万博（赤十字パビリオン）のスタッフ派遣	37
(9) 支部創立130周年機運醸成の取り組み	38
12 有功会	38
(1) 会員の数（個人・法人）	38
(2) 事業内容	38
13 一般会計決算概要	40
 II 医療事業・医療施設特別会計決算概要	41
1 大津赤十字病院	41
2 大津赤十字志賀病院	43
3 長浜赤十字病院	46
 III 血液事業概要	50
滋賀県赤十字血液センター	50

は じ め に

近年、全国で地震や集中豪雨などが頻発する中、昨年度も、トカラ列島の群発地震や青森県東方沖地震、北海道での初めての線状降水帯の発生をはじめ各地での豪雨、さらには大規模火災などにより災害が相次ぎ、日本赤十字社は、状況に応じて、医療救護や避難所支援などに尽力をしてまいりました。

このような状況の下、災害救護にかかる訓練や研修、赤十字ボランティアへの支援、医療施設の運営、血液製剤の供給など支部の活動は、種々の課題はあるものの、県民の皆様ならびに関係者の皆様のご理解とご協力により、概ね順調に推進することができました。

支部といたしましては、本県にも甚大な被害が及ぶことが想定される南海トラフ巨大地震をはじめ、いつどこで起こるか分からない災害に備えるため、今後も、地域赤十字奉仕団や防災支援赤十字奉仕団とも連携しながら、より一層、防災・減災の取り組みを進めるとともに、発災時には、迅速・的確な活動ができるよう、救護体制の充実・強化を図ってまいります。

また、海外では、武力紛争による深刻な人道危機や大規模な自然災害などにより、多くの方が命の危険にさらされるとともに、医療や生活にも困窮されています。皆様からお預かりした海外救援金は避難民や被災者への支援や、医薬品の提供に役立てています。引き続きご協力をお願い申し上げます。

支部は、令和7年に創立130周年を迎え、本年12月には、130周年を記念した滋賀県赤十字大会を開催する予定です。

この大会をこれまで支部をお支えいただいた皆様への感謝とともに、これからも、支部職員やボランティアの皆様、関係者の皆様がともに赤十字の使命である「人間のいのちと健康、尊厳を守る」の達成に向けて、着実に歩んでいく契機にしたいと考えています。

「救うことを、つづける。」を合言葉に、支部事務局、赤十字病院、血液センターが連携しながら、関係者の皆様とともに、地域に根差した活動に積極的に取り組んでまいりますので、引き続き、皆様からの温かいご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和8年6月

日本赤十字社滋賀県支部

I 支部事業・一般会計決算概要

1 評議員会並びに監査等の実施

(1) 評議員会の開催

開催月	会場	議案等
(第1回) 6月11日(水)	滋賀県農業教育 情報センター	第1号議案 令和6年度事業報告および歳入歳出決算 について (監査委員監査報告書を添付)
(第2回) 2月20日(金)	滋賀県農業教育 情報センター	第1号議案 令和8年度事業計画について 第2号議案 令和8年度歳入歳出予算について

(2) 監査委員による監査の実施

令和6年度の業務の管理および執行並びに会計について監査委員による監査を実施しました。

(日本赤十字社が会計の監査を委託している監査法人の監査概要を添付(ただし滋賀県赤十字血液センターは除く))

監査対象施設

日本赤十字社滋賀県支部

大津赤十字病院

大津赤十字志賀病院

長浜赤十字病院

滋賀県赤十字血液センター(滋賀県赤十字血液センターは、業務監査のみ実施)

監査実施日

6月3日(火)

監査実施場所

日本赤十字社滋賀県支部会議室

(3) 監査委員による赤十字施設の視察

監査委員は、上記監査とは別に、業務状況をより適切に把握するため、年に一度管内赤十字施設に対する視察を実施しています。令和7年度は9月3日(水)に大津赤十字志賀病院を視察しました。

(4) 日本赤十字社理事会・代議員会等への出席

名 称	開催日	会 場	理事・代議員名	内 容
日本赤十字社 常任理事会	4月25日	日本赤十字社本社	坂口常任理事	1 役員紹介 2 審議事項 (1) 日本赤十字社創立150周年プロジェクトの取り組み状況について 3 報告事項 (1) ミャンマー地震にかかる対応について (2) 紛争下での人道支援活動の保護にかかる人道外交について (3) 「赤十字この1年 令和6年度」について
日本赤十字社 常任理事会	5月14日	日本赤十字社本社	坂口常任理事	1 報告事項 (1) 職員意識調査結果から見た「トータルリワード」の取り組みの進捗について
日本赤十字社 常任理事会	6月26日	日本赤十字社本社	坂口常任理事	1 付議事項 (1) 理事会に付議する事項について ア 規則の改正について ① 日本赤十字社総合資金規程の一部改正 (2) 理事会および第106回代議員会に付議する事項について ア 役員の選出 イ 令和6年度事業報告および収支決算の承認 2 報告事項 (1) 赤十字教育施設にかかる個別案件について
日本赤十字社 理事会	6月27日	東京都・新霞が関ビル	坂口理事	1 付議事項 (1) 規則の改正について ア 日本赤十字社総合資金規程の一部改正 (2) 第106回代議員会に付議する事項について ア 役員の選出 イ 令和6年度事業報告および収支決算の承認
日本赤十字社 第106回 代議員会	6月27日	東京都・新霞が関ビル	坂口代議員 児島代議員	1 社長挨拶 2 付議事項 (1) 役員の選出について (2) 令和6年度事業報告および収支決算の承認について 3 報告事項 (1) ミャンマー地震に対する日本赤十字社の活動について (2) 2025年大阪・関西万博への赤十字の出展状況について

日本赤十字社 常任理事会	7月25日	東京プリ ンスホテル	坂口常任理事	1 報告事項 (1) 今後の献血推進について (2) 日本赤十字社創立150周年プロジェクトについて
日本赤十字社 常任理事会	9月19日	日本赤十字社本社	坂口常任理事	1 報告事項 (1) 被爆80年におけるICRC総裁と日本赤十字社社長の核兵器廃絶に向けた共同声明について (2) 日本赤十字社創立150周年プロジェクトについて（将来構想懇話会の設置）
日本赤十字社 常任理事会	10月17日	日本赤十字社本社	坂口常任理事	1 報告事項 (1) 地域における赤十字病院の現状と今後の方向性について (2) 日本赤十字社創立150周年プロジェクトについて（赤十字の活動を支える方々の思いを束ねる取組み（ワークショップ）の実施）
日本赤十字社 常任理事会	11月21日	日本赤十字社本社	坂口常任理事	1 審議事項 (1) 第三次中期事業計画の策定について 2 報告事項 (1) 令和7年度上半期事業報告について (2) 最近の国際赤十字・赤新月社連盟理事会の協議内容について
日本赤十字社 理事会	11月21日	日本赤十字社本社	坂口理事	1 報告事項 (1) 令和7年度上半期事業報告について (2) 2025年大阪・関西万博の出展報告について (3) 令和7年度NHK海外たすけあいについて (4) 日本赤十字社創立150周年プロジェクトの取り組み状況について
日本赤十字社 常任理事会	12月19日	日本赤十字社本社	坂口常任理事	1 報告事項 (1) 国際赤十字・赤新月社連盟臨時総会の報告について (2) 日本赤十字社の気候変動対応にかかるアクション・プラン（第2版）の策定について (3) 日本赤十字社創立150周年プロジェクトについて（PR・イベントの実施等）

日本赤十字社 常任理事会	1月23日	日本赤十字社本社	坂口常任理事	1 事前協議事項 (1) 地域医療構想における個別案件について 2 報告事項 (1) 日本赤十字社創立150周年プロジェクトについて(将来構想懇話会および推進者対象ワークショップ実施状況報告)
日本赤十字社 常任理事会	2月27日	日本赤十字社本社	坂口常任理事	1 審議事項 (1) 救護・社会活動の資金的基盤の強化に向けた取り組みについて (2) 理事会に付議する事項について ア 規則の改正について ① 日本赤十字社本社組織規則の一部改正 (3) 理事会および第107回代議員会に付議する事項について ア 役員の選出 イ 令和8年度事業計画 ウ 令和8年度収支予算
日本赤十字社 常任理事会	3月18日	日本赤十字社本社	坂口常任理事	1 審議事項 (1) 理事会および第107回代議員会に付議する事項について ア 役員の選出 2 報告事項 (1) 令和8年度の広報戦略等について
日本赤十字社 理事会	3月19日	東京都・新霞が関ビル	坂口理事	1 付議事項 (1) 規則の改正について ア 日本赤十字社本社組織規則の一部改正 (2) 第107回代議員会に付議する事項について ア 役員の選出 イ 令和8年度事業計画 ウ 令和8年度収支予算 2 常任理事の互選 3 業務執行理事の指名 4 報告事項 (1) 日本赤十字社創立150周年プロジェクトについて
日本赤十字社 第107回 代議員会	3月19日	東京都・新霞が関ビル	坂口代議員 児島代議員	1 社長挨拶 2 付議事項 (1) 役員の選出について (2) 令和8年度事業計画について (3) 令和8年度収支予算について 3 報告事項 (1) 日本赤十字看護大学附属災害救護研究所の設立と活動について

(5) 支部名誉職員名簿

令和8年3月31日現在

役 職	氏 名	備 考
支 部 長	三日月 大 造	滋賀県知事
副 支 部 長	東 勝	滋賀県副知事
〃	小 椋 正 清	滋賀県市長会長・東近江市長
〃	伊 藤 定 勉	滋賀県町村会長・豊郷町長
本 社 代 議 員	坂 口 康 一	近江鍛工株式会社取締役会長〔本社常任理事 ^(注) 〕
〃	児 島 多鶴子	近江ユニキャリア株式会社代表取締役社長
支部監査委員	北 村 嘉 英	草津電機株式会社代表取締役会長
〃	藤 本 武 司	元滋賀県代表監査委員
評 議 員	松 井 繁 夫	大 津 市 地 区 選 出
〃	田 中 勉	〃
〃	八 軒 艶 子	〃
〃	田 島 一 成	彦 根 市 地 区 選 出
〃	磯 谷 直 一	〃
〃	浅 見 宣 義	長 浜 市 地 区 選 出
〃	千 種 恵美子	〃
〃	小 西 理	近江八幡市地区 選出
〃	高 木 富砂子	〃
〃	橋 川 涉	草 津 市 地 区 選 出
〃	清 水 和 廣	〃
〃	川那辺 守 雄	守 山 市 地 区 選 出
〃	岸 年 江	〃
〃	竹 村 健	栗 東 市 地 区 選 出
〃	坂 口 栄 子	〃
〃	岩 永 裕 貴	甲 賀 市 地 区 選 出
〃	林 善 彦	〃
〃	櫻 本 直 樹	野 洲 市 地 区 選 出
〃	松 浦 加代子	湖 南 市 地 区 選 出
〃	今 城 克 啓	高 島 市 地 区 選 出
〃	小 椋 正 清	東近江市地区 選出
〃	森 野 才 治	〃
〃	角 田 航 也	米 原 市 地 区 選 出
〃	堀 江 和 博	東 近 江 地 区 選 出
〃	有 村 国 知	湖 東 地 区 選 出
〃	伊 藤 定 勉	〃
〃	山 田 忠 利	支 部 長 選 出 滋賀県健康医療福祉部長
〃	高 木 富砂子	〃 赤十字奉仕団滋賀県支部委員会委員長
〃	川 嶋 祥 吾	〃 滋賀県青少年赤十字指導者協議会長
〃	大 道 良 夫	〃 日本赤十字社滋賀県支部有功会長

(注) 本社常任理事の任期は令和7年4月1日から1年間

(敬称略)

2 全国赤十字大会

名誉総裁皇后陛下、名誉副総裁各宮妃殿下のご臨席を賜り、5月13日に、東京都渋谷区の明治神宮会館において、来賓、赤十字会員の代表など約1,600人の出席のもと全国赤十字大会が開催されました。

式典では、国歌斉唱、社長あいさつに続き、名誉総裁から赤十字事業の推進に尽力された会員の代表13人に有功章の授与が行われました。

滋賀県支部からは、支部役員3人、有功会員6人、奉仕団関係者3人、地区会員代表4人、施設職員1人、支部職員3人の計20人が出席しました。

3 会議・職員研修会の開催

(1) 会議の開催

ア 地区分区および施設職員を対象とした会議

名 称	開催日	会 場	対象および出席者数	内 容
赤十字事務担当主任者会議	4月25日 (金)	滋賀県農業教育情報センター	日赤事務担当主任者	1 赤十字のしくみと活動 2 令和7年度事業計画および歳入歳出予算の概要 3 地区・分区における業務について 4 その他
赤十字施設業務連絡会議	5月27日 (火)	日本赤十字社滋賀県支部会議室	支部事務局長、施設事務部長（血液センターは事業部長）および支部・各施設の人事総務担当課長等 計15人	1 本年度支部監査委員による監査 2 職員研修 (1) 滋賀県支部主催研修 (2) 第4ブロック主催研修 (3) 本社主催研修 (4) その他 3 大阪・関西万博開催にかかる職員協力 4 寄付金付自動販売機の設置および寄付実績 5 令和7年度災害救護訓練予定 6 令和7年度赤十字救急法等講習の開催予定 7 その他 (1) 支部創立130周年機運醸成のための取り組み等 (2) 今後の予定 ① 令和7年度第1回評議員会の開催 ② 有功会総会の開催
赤十字事務担当課長(幹事)会議	12月15日 (月)	日本赤十字社滋賀県支部会議室	担当課長等15人 事務局 5人	協議事項 1 令和7年度の主な取り組みについて 2 令和7年度活動資金募集進展状況について 3 令和8年度主要事業計画(案)について その他 1 令和8年度地域赤十字奉仕団主要事業計画(案)について 2 赤十字奉仕団の役員の改選について

赤十字施設業務連絡会議	1月14日 (水)	日本赤十字社 滋賀県支部会議室	支部事務局長、 施設事務部長 (血液センターは 事業部長)、およ び支部・各施設 の人事総務担当 課長等 計16人	1 令和8年度滋賀県支部・赤十字施設の監査の実施 2 支部創立130周年記念滋賀県赤十字大会の開催 3 職員研修 (1) 滋賀県支部主催研修 (2) 第4ブロック主催研修 (3) 本社主催研修 4 指定事業社資を活用した救護資機材整備計画 5 その他 (1) 大阪・関西万博(赤十字パビリオン)スタッフ派遣実績 (2) 寄付金付自動販売機の設置状況 (3) 全国赤十字大会への施設長等の参加 (4) 有功会親睦旅行にかかる看護師の随行について (5) 令和8年度災害救護訓練予定 6 今後の予定 令和7年度第2回評議員会の開催
-------------	--------------	--------------------	---	---

(2) 地区分区赤十字事務打ち合わせ会

支部職員が地区分区を訪問し、赤十字活動にかかる情報共有を行うとともに、地区分区交付金の管理、救援物資の在庫状況等の確認を行いました。

訪問日	地区分区	出席者数
8月28日(木)	東近江市地区	地区担当者 2人 支部職員 2人
	愛荘町分区	分区担当者 1人 支部職員 2人
8月29日(金)	甲良町分区	分区担当者 1人 支部職員 2人
	多賀町分区	分区担当者 1人 支部職員 2人
9月2日(火)	野洲市地区	地区担当者 2人 支部職員 2人
	湖南市地区	地区担当者 3人 支部職員 2人
9月5日(金)	大津市地区	地区担当者 2人 支部職員 2人
	高島市地区	地区担当者 1人 支部職員 2人

(3) 職員研修会の開催

名 称	開催日	会 場	対象および出席者数	研修内容
令和7年度 支部・施設10年目 中堅職員研修 (第1回)	10月20日 (月)	クサツエス トピアホテル	支部・施設の勤続10年 を迎える職員 23人 講 師 2人 事務局 3人	1 第一線で働く中堅職員に求められる立場と役割を再確認する。 2 役割を果たすために必要なコミュニケーション能力を身につける。
令和7年度 支部・施設10年目 中堅職員研修 (第2回)	11月5日 (水)		支部・施設の勤続10年 を迎える職員 30人 講 師 2人 事務局 3人	3 マンネリを打破し、組織へ積極的に働きかけをしていく意識を向上させる。

4 会員増強運動の推進と実績

(1) 会員増強運動の推進

5月を「赤十字会員増強運動月間」として、ひとりでも多くの方々に赤十字の思想・活動を理解していただくとともに、赤十字会員への加入、高額活動資金や法人活動資金の拡充強化に努めました。

本年度会員増強運動に使用した資料は次のとおりです。

ア 赤十字会員増強運動実施要項	150部
イ 小冊子（リーフレット）	5,500部
ウ ポスター	6,250部
エ 赤十字活動チラシ	450,000部
オ 赤十字会員募集のてびき	2,700部
カ 広報用DVD	25部
キ 活動資金領収書	149,256部
ク 法人に対する活動資金協力依頼状	20,131部
ケ 個人情報の取扱いに関する啓発パンフレット	1,000部
コ 法人向けチラシ①（DM用）	8,200部
サ 法人向けチラシ②（DM用）	8,100部
シ 法人向けチラシ③（DM用）	300部

(2) 令和7年度活動資金募集実績

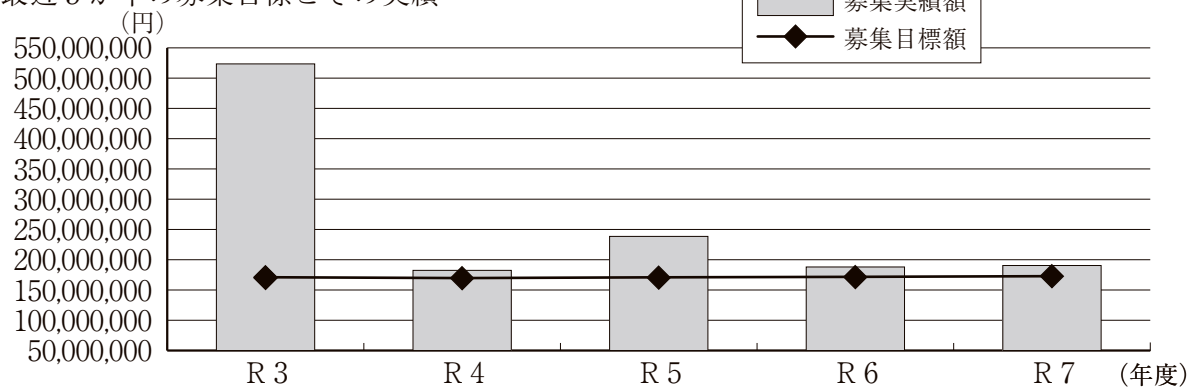
各市町の標準世帯数の40%以上を「500円会員」、28%以上を「1,000円会員」として募集することを目標とし、県民の支援と協力を依頼したところ地区分区の協力もあり、別表のような実績を上げました。

令和 7 年度活動資金募集実績

地区区分名			募集目標額 (A) (円)	募集実績額内訳					実績額合計 G=B+C+D+E+F (円)	達成率 G／A (%)	
				地区区分・ 支部実績額 (B) (円)	赤十字しが (C) (円)	個人DM (D) (円)	口座振替 (E) (円)	クレジットカード (F) (円)			
地区区分	市地区	大津市	33,888,000	7,864,759	728,000	7,615,760	775,000	2,349,000	19,332,519	57.0%	
		彦根市	10,577,000	3,877,175	297,642	1,989,758	178,000	679,500	7,022,075	66.4%	
		長浜市	14,547,000	6,590,502	123,000	1,244,671	171,000	140,000	8,269,173	56.8%	
		近江八幡市	10,042,000	5,194,335	173,000	682,000	310,000	49,000	6,408,335	63.8%	
		草津市	6,691,000	4,995,460	182,000	2,640,736	398,000	2,151,400	10,367,596	154.9%	
		守山市	8,707,000	6,751,407	250,000	1,549,379	34,000	225,000	8,809,786	101.2%	
		栗東市	6,799,000	2,797,171	25,000	515,666	153,000	188,000	3,678,837	54.1%	
		甲賀市	11,617,500	8,419,856	208,000	374,000	76,000	65,000	9,142,856	78.7%	
		野洲市	5,840,500	2,914,725	48,000	446,405	70,000	16,000	3,495,130	59.8%	
		湖南市	5,959,000	3,076,507	5,000	432,500	51,000	108,000	3,673,007	61.6%	
		高島市	6,046,500	3,995,037	20,000	290,397	14,000	118,000	4,437,434	73.4%	
		東近江市	13,966,500	12,194,849	65,000	559,439	127,000	152,000	13,098,288	93.8%	
		米原市	5,511,000	5,170,279	38,000	669,000	48,000	178,000	6,103,279	110.7%	
		市地区計	140,192,000	73,842,062	2,162,642	19,009,711	2,405,000	6,418,900	103,838,315	74.1%	
		郡地区	東近江	日野町	2,712,000	2,229,062	35,000	115,000	0	12,777	2,391,839
	竜王町			1,656,000	815,000	10,000	45,000	0	5,000	875,000	52.8%
	東近江計			4,368,000	3,044,062	45,000	160,000	0	17,777	3,266,839	74.8%
	湖東		愛荘町	2,489,000	1,957,670	17,000	138,000	34,000	26,000	2,172,670	87.3%
			豊郷町	951,500	1,046,621	35,110	180,000	48,000	0	1,309,731	137.6%
			甲良町	975,500	815,000	0	10,500	0	0	825,500	84.6%
			多賀町	1,164,000	1,017,000	5,000	40,000	0	0	1,062,000	91.2%
			湖東計	5,580,000	4,836,291	57,110	368,500	82,000	26,000	5,369,901	96.2%
	郡地区計		9,948,000	7,880,353	102,110	528,500	82,000	43,777	8,636,740	86.8%	
	地区区分計		150,140,000	81,722,415	2,264,752	19,538,211	2,487,000	6,462,677	112,475,055	74.9%	
	支部		22,814,000	77,716,443	0	255,000	0	3,000	77,974,443	341.8%	
	支部・地区区分計		172,954,000	159,438,858	2,264,752	19,793,211	2,487,000	6,465,677	190,449,498	110.1%	
	個人住民税寄付金 控除対象救援金		0	493,000	0	0	0	0	493,000	－	
	病院使途指定 寄付金		0	17,350,000	0	0	0	0	17,350,000	－	
	合計		172,954,000	177,281,858	2,264,752	19,793,211	2,487,000	6,465,677	208,292,498	120.4%	

※募集実績額内訳(C)～(F)については、支部による募集に対し、協力のあった実績を居住地ごとに分類したもの。

最近5か年の募集目標とその実績



凡 例	年 度	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
◆	募 集 目 標 額	171,204,000	169,805,000	171,053,000	171,835,000	172,954,000
	(うち口座振替目標額)	(2,593,000)	(2,628,000)	(2,655,000)	(2,671,000)	(2,690,000)
	(うちクレジット目標額)	(2,611,000)	(1,177,000)	(2,398,000)	(3,164,000)	(4,264,000)
■	募 集 実 績 額	523,520,133	182,432,147	238,538,644	188,029,936	190,449,498

(上記募集実績額は個人住民税寄付金控除対象救済金および管内赤十字病院等への使途指定寄付金を除く)

(3) 活動資金募集にかかる主な取り組みと実績

ア 個人向けダイレクトメールによる活動資金募集実績

過去に支部へ活動資金の協力があった個人をはじめ、本社から提供のあった義援金・救済金・海外たすけあい協力者を対象にダイレクトメールによる活動資金募集を行いました。

	送付件数	応諾数	応諾率	協力金額
10月発送	7,587件	886件	11.7%	19,793,211円

イ 法人活動資金募集の実績

① 法人活動資金の実績

	予 算 額 (円)	実 績 額 (円)
指定寄付金	2,900,000	2,900,000
損金算入限度額特例扱寄付金	15,100,000	34,462,140
合 計	18,000,000	37,362,140

※指定寄付金として募集した額は、救護物品等の整備費に充当しました。

② ダイレクトメール (DM) による募集

年3回(7月・10月・2月)発送のダイレクトメールにより、法人に対して活動資金の募集を行いました。

	発送数 (件)	応諾数 (件)	応諾率 (%)	協力金額 (円)
7月 発送分	8,051	399	5.0	9,139,500
10月 発送分	8,013	125	1.6	1,941,098
2月 発送分	277	31	11.2	826,500
合 計	16,341	555	3.4	11,907,098

【発送条件】

7月発送分：支部保有法人データ全件

帝国データバンクから購入した売上高5千万円以上の法人

11月発送分：7月にDMを発送した法人のうち、未応諾の法人

サイドソナーにより取得した県内の税理士法人

2月発送分：一昨年、昨年に協力いただいた法人のうち、未応諾の法人

③ 訪問による募集

支部職員、地区分区事務職員、奉仕団員が法人を訪問し、活動資金の募集を行いました。

	依頼件数	応 諾 数	応 諾 率	協力金額
17 地区分区	1,788件	1,321件	73.9%	6,420,972円

④ 法人会員向けステッカーの作成・配布

日本赤十字社を支援していただいている事実を表すために、法人会員向けステッカーを作成し、活動資金として2,000円以上のご寄付があった法人を対象に配布しました。

(4) 企業・団体等とのパートナーシップ構築の推進

ア 募金箱による協力

設置数 22か所

金 額 381,713円

イ 寄付金付き自動販売機による協力

設置数 26か所

金 額 1,859,237円

ウ 赤十字支援マークの使用（令和7年度締結分）

2法人

① 宮部運輸有限会社 ホームページへの掲載

② 株式会社ランテック滋賀支店 寄付金付き自動販売機への掲示

エ 経済団体と連携した活動

滋賀県中小企業団体中央会、滋賀県中小企業青年中央会が主催する、お仕事体験・学習イベント「しがわーくフェスタ2025」へブースを出展し、「AED体験コーナー」、「無線体験」、「ぼうさいまちがいさがし きけんはっけん!」、「防災グッズの展示」等を行いました。

オ 滋賀県税理士協同組合および各支部へ訪問

滋賀県税理士協同組合および各支部（今津支部、大津支部、長浜支部）へ訪問し、赤十字活動の説明や活動資金への協力について依頼しました。

カ 本社が遺贈等に関する協定を締結している金融機関への訪問

本社が遺贈等に関する協定を締結している県内の金融機関（三井住友信託銀行大津支店および三井住友銀行草津支店）を訪問し、赤十字活動の説明や、遺贈に関する取り組みについて紹介し、今後の協力を依頼しました。

(5) 赤十字会員数

会員数（年額2,000円以上協力者）

	会員数	増減（前年度比）
個 人（人）	4,199	-223
法 人（法人）	2,050	-9
合 計（人・法人）	6,249	-232

（令和8年3月31日現在）

(6) 有功章等受章件数

	個 人	法 人	合 計
紺 綬 褒 章	2	0	2
支 部 長 表 彰 状	18	23	41
特 別 社 員 章	158	－	158

（令和8年3月31日現在）

5 災害救護活動

日本赤十字社は、災害対策基本法により「指定公共機関」として位置づけられるとともに、災害救助法により国および都道府県に対する救助への協力義務が規定されています。

滋賀県支部は、滋賀県と「災害救助法による救助等に関する委託契約書」を締結しており、避難所での生活環境の整備および被災者に対するこころのケア、医療、助産および死体の処理に関する事項を実施することとなっています。

令和7年度は、従来の訓練・研修に赤十字医療施設の救護班等を派遣することに加え、新たに支部災害対策本部要員研修を実施し、災害時に的確かつ迅速な対応を行うため能力向上に努めました。

(1) 災害救援物資および弔慰金の配分状況

地震、火災、風水害などの自然災害、人為災害時に全壊、全焼、流出の世帯に対し、支部備蓄の救援物資の配布や死亡者に対して弔慰金を配分しています。

令和7年度は次のとおり救援物資および弔慰金の配分を行いました。

ア 災害救援物資

物 資 名	数 量	物 資 名	数 量
毛 布	59枚	大判タオル	52本
緊急セット	17個	タ オ ル	19本

イ 弔慰金

5 件：死者5人、配分額 50,000円

(2) 義援金、海外救援金の受付状況

令和8年3月31日

義 援 金 名	金 額 (円)	
	本年度分	累 計
令和6年能登半島地震災害義援金	5,929,857	197,267,190
令和6年9月能登半島大雨災害義援金	798,625	7,827,067
令和7年大船渡市赤崎町林野火災義援金	862,435	2,391,150
令和7年トカラ列島近海を震源とする地震災害義援金	553,137	同左
令和7年台風第8号に伴う災害義援金	504,503	同左
令和7年8月6日から的大雨災害義援金	628,645	同左
令和7年台風第12号災害義援金	465,816	同左
令和7年台風第15号災害静岡県義援金	428,954	同左
令和7年台風第22号および第23号災害義援金	419,276	同左
令和7年11月18日大分市佐賀関の大規模火災義援金	681,285	同左
令和7年青森県東方沖地震義援金	355,020	同左
計	11,627,553	207,485,407

救 援 金 名	金 額 (円)	
	本年度分	累 計
中東人道危機救援金	127,694	129,958
バングラデシュ南部避難民救援金	1,595	5,983
ウクライナ人道危機救援金	1,169,517	23,976,326
2025年ミャンマー地震救援金	449,249	同左
2025年アフガニスタン地震救援金	261,111	同左
2025年パキスタン洪水救援金	223,292	同左
イランおよび周辺国人道危機救援金	80,000	同左
計	2,312,458	24,112,267

(3) 救護資機材の整備

災害対応能力強化のための資機材として、県内医療施設に非常食、非常用トイレ、簡易ベッド、モバイルルーター、安全靴等を整備しました。

また、災害救護対応に要した医薬品にかかる費用の助成を行いました。

(4) 訓練および研修

ア 日本赤十字社第4ブロック合同災害救護訓練

6月7日、高槻赤十字病院、宗教法人真如苑を主会場に、大規模災害が発生した際、近畿2府4県の赤十字支部・施設が連携し、救護活動が展開できるよう各種救護訓練等を実施しました。

【参加者数】

救護班要員等（赤十字職員）50人

（滋賀県支部5人、大津赤十字病院14人、大津赤十字志賀病院8人、長浜赤十字病院21人）

大津赤十字看護専門学校学生27人

防災支援赤十字奉仕団員9人

イ 東近江市総合防災訓練

9月7日に、東近江市おくのの運動公園を主会場に実施されました。滋賀県支部では、体育館を会場とした避難所訓練に参加しました。

【参加者数】

救護班要員等（赤十字職員）13人

（滋賀県支部2人、大津赤十字病院11人）

防災支援赤十字奉仕団員5人

ウ 大津市総合防災訓練

11月9日、大津市日吉台学区を主会場とした訓練が開催され、滋賀県支部では現場救護所設置運営訓練および災害ボランティアセンター現地サテライト開設・運営訓練に参加しました。

【参加者数】

救護班要員等（赤十字職員）18人

（滋賀県支部2人、大津赤十字病院9人、大津赤十字志賀病院7人）

防災支援赤十字奉仕団員5人

エ 救護員としての赤十字看護師研修（合同災害救護演習）

10日31日、長浜赤十字病院において災害時の救護活動に必要なトリアージ等の技術の習得や、組織における自己の役割の認識、指示・命令系統の理解等を目的に合同災害演習を実施しました。

【参加者数】

看護師52人

（大津赤十字病院28人、大津赤十字志賀病院3人、長浜赤十字病院21人）

その他職員14人

（大津赤十字病院4人、大津赤十字志賀病院1人、長浜赤十字病院6人、滋賀県支部2人）

オ 救護班主事研修

11月26日、滋賀県危機管理センターにおいて、救護班主事として必要な知識と救護資機材の取扱いの習得を目的として、研修会を実施しました。

【参加者数】

主事15人

（大津赤十字病院10人、大津赤十字志賀病院1人、長浜赤十字病院4人）

その他職員7人

（滋賀県支部2人、大津赤十字病院2人、長浜赤十字病院3人）

カ こころのケア研修およびこころのケア指導者養成研修

① こころのケア研修

被災者および救援者である救護員へのこころのケアの重要性について理解を深めるとともに、救護員自身のこころのケアに関する対処方法の取得を目的として実施しました。

	大津赤十字病院	長浜赤十字病院
実 施 日	6月2日、3日	8月6日
修了者人数	32人	41人
指導スタッフ	8人	10人

② こころのケア指導者養成研修（10月22日～23日、11月23日～24日）

災害時におけるこころのケア活動は、救護活動における重要な柱のひとつです。本社ではその要員を養成する「こころのケア指導者養成研修」を実施し、令和7年度は、大津赤十字病院、大津赤十字志賀病院、長浜赤十字病院から1人ずつが参加しました。

(5) 救護員の登録状況

常備救護班は医師を班長として1人、看護師長1人、看護師2人、主事1人、自動車操作要員1人の計6人をもって1班とし、大津赤十字病院に4個班、大津赤十字志賀病院に1個班、長浜赤十字病院に3個班を常備編成しています。

(6) 救護資材整備状況および救援物資備蓄状況

ア 救護資機材整備状況

品 名	保 有 数	品 名	保 有 数
災 害 救 援 車	3	業 務 用 無 線 基 地 局	2
救 護 所 用 大 型 テ ン ト	2	車 載 型 業 務 用 無 線 機	15
救 護 所 用 テ ン ト 空 調 装 置	2	携 帯 型 業 務 用 無 線 機	25
天 幕 (3.6m×5.4m)	6	衛 星 携 帯 電 話	3
エアーテント (大・小)	2	病 院 前 除 染 設 備 一 式	2
ワ ン タ ッ チ テ ン ト	7	医 療 セ ッ ト 一 式	8
担 架	24	移 動 式 炊 飯 器	2
担 架 架 台	5	救 護 員 用 雨 具	60
折 り 畳 み 寝 台	31	救 護 員 用 防 寒 具	60
発 電 機	4	救 護 員 用 寝 袋	18

イ 災害救援物資の備蓄状況

品 名	保 有 数	品 名	保 有 数
毛 布	9,317	大 判 タ オ ル	440
緊 急 セ ッ ト	1,037	タ オ ル	526
安 眠 セ ッ ト	360	タ オ ル ケ ッ ト	1,189

6 赤十字救急法・健康生活支援講習等の講習普及

(1) 救急法

日常生活などで不慮の事故にあった際、医師などに引き渡すまでの応急手当や救命手当を赤十字奉仕団、学校、企業等を対象に実施しました。

区 分	実施回数（回）	受講人数（人）
一 般 普 及 講 習(基礎講習)	12	296
一 般 普 及 講 習(救急員養成)	11	238
短 期 講 習	147	5,231

(2) 健康生活支援講習

健やかな高齢期を過ごすための健康維持・増進の思想と、高齢者の自立をめざした介護予防の方法を指導するもので、赤十字奉仕団、一般住民を対象に行いました。

区 分	実施回数（回）	受講人数（人）
一 般 普 及 講 習(支援員養成)	2	50
短 期 講 習	3	263

(3) 幼児安全法

子どもを社会の財産として大切に育てるため、子どもに起こりやすい事故に対する応急手当の方法と事故防止、子どもの病気と看病のしかたを中心として子育て支援関係者、保育園・幼稚園の職員、福祉施設の職員等を対象に行いました。

区 分	実施回数（回）	受講人数（人）
一 般 普 及 講 習(支援員養成)	2	53
短 期 講 習	35	592

(4) 水上安全法

安全に水と親しむための、事故防止や泳ぎの基本と自己保全、水の事故に遭った際の救助や手当の方法などの知識と技術を習得するもので、学校関係職員を対象に実施しました。

区 分	実施回数（回）	受講人数（人）
一 般 普 及 講 習(救助員Ⅰ養成)	1	5
一 般 普 及 講 習(救助員Ⅱ養成)	0	0
短 期 講 習	19	572

(5) 指導員の養成

赤十字健康生活支援講習の指導員 3 人を養成しました。

(6) 講習指導員の研修

滋賀県支部に所属する救急法、水上安全法の各指導員に対し技能維持を目的とした指導員研修を実施しました。

対 象 指 導 員	実施回数（回）	受講人数（人）
救 急 法・水 上 安 全 法	1	43
健 康 生 活 支 援 講 習	1	17
幼 児 安 全 法	1	30

(7) 各種講習指導員数

講 習 種 別	ボランティア（人）	職 員（人）	総数（人）
救 急 法	98	59	157
水 上 安 全 法	20	1	21
健康生活支援講習	14	20	34
幼 児 安 全 法	19	32	51

(8) 防災教育の普及

近年の防災・減災に対する関心の高まりをうけ、地震や風水害などの自然災害に対しての正しい知識や災害時の備えなどを学ぶ防災教育を、学校、地域、赤十字奉仕団等に対して実施しました。

対 象	実施回数（回）	受講者数（人）
自 治 会 等	12	921
赤 十 字 奉 仕 団	14	1,191
学 校 関 係	18	1,426
そ の 他	7	175
合 計	51	3,713

(9) 滋賀県安全法指導員協議会

救急法・水上安全法の指導員資格を有する者をもって会員とし、講習普及や人命尊重と苦痛の軽減に寄与することを目的に結成されており、支部の講習計画に基づき、県内の講習普及に努めています。

会員数は、救急法157人、水上安全法21人の計178人（重複者7人）

名 称	期日等	出席者（人）	内 容
定期総会	4月29日	41	1 会則の改正について 2 令和6年度事業報告並びに収支決算 3 令和7年度事業計画（案）について
第1回役員会	2月26日	8	【報告事項】 1 令和7年度事業実施状況について 【協議事項】 1 令和8年度事業計画（案）について 2 役員改選について

7 赤十字奉仕団

赤十字奉仕団は、市町の地域毎につくられる地域奉仕団と社会人や学生などによって組織された青年奉仕団、また特殊技能者が集まった特殊奉仕団があります。

赤十字奉仕団は、赤十字思想の普及や災害救護など、赤十字事業の推進にあたりとともに、地域の状況に応じた福祉活動など幅広い活動を展開しています。

(1) 設団状況

ア 地域奉仕団

地域別	団数（団）	分団または班数 （団または班）	団 員 数（人）		
			男	女	計
市	42	498	996	8,712	9,708
町	7	68	113	1,057	1,170
計	49	566	1,109	9,769	10,878

イ 青年奉仕団

名 称	団 員 数（人）		
	男	女	計
滋賀県青年赤十字奉仕団はなまる	2	2	4
大津赤十字看護専門学校学生奉仕団めだか	7	87	94
計	9	89	98

ウ 特殊奉仕団

名 称	団 員 数（人）		
	男	女	計
滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団	44	14	58
滋賀県防災支援赤十字奉仕団	39	21	60
計	83	35	118

(2) 地域赤十字奉仕団の活動

ア 赤十字奉仕団滋賀県支部委員会

開催日	出席者数	会 場	内 容
11月26日	県支部委員16人 指導講師 3人	滋賀県支部 会議室	- 令和7年度滋賀県赤十字奉仕団親睦研修旅行の反省について - 令和8年度滋賀県赤十字奉仕団親睦研修旅行について - 報告事項 - 防災・減災啓発活動推進交付金について - 重点目標事業交付金について - 赤十字ボランティア活動ブックレットに掲載のURLについて
1月21日	県支部委員15人 指導講師 4人	滋賀県支部 会議室	- 令和7年度事業の実施状況について - 令和8年度事業計画（案）について - 報告事項 - 滋賀県赤十字奉仕団親睦研修旅行下見の実施について

イ 赤十字奉仕団滋賀県支部常任委員会

開催日	出席者数	会 場	内 容
6月5日	常任委員 8人 指導講師 1人	滋賀県支部 会議室	- 令和7年度赤十字奉仕団委員長会議・研修会の振り返り - 令和7年度赤十字奉仕団男性団員交流研修会研修内容の企画について
9月25日	常任委員 6人 指導講師 1人	滋賀県支部 会議室	- 令和7年度赤十字奉仕団男性団員交流研修会の振り返り - 令和8年度滋賀県赤十字奉仕団親睦研修旅行の仕様書について - 赤十字奉仕団結成75周年記念滋賀県赤十字奉仕団表彰式について - 委員長表彰候補者について - 参加記念品について - 報告事項 - 子ども用救護服の貸出しについて
12月3日	常任委員 7人	滋賀県支部 会議室	- 令和7年度事業の実施状況について - 令和8年度事業計画（案）について
3月12日	常任委員 7人 指導講師 1人	滋賀県支部 会議室	- 令和8年度基本目標について - 令和8年度赤十字奉仕団委員長会議・研修会について

ウ 赤十字奉仕団委員長会議・研修会

開催日	参加者数	会 場	内 容
4月15日 ～16日	奉仕団委員長 48人 (代理含む) 指導講師 5人	コラボしが21	1 赤十字の必要性と重点目標 2 重点目標事業活動報告 ・長浜市長浜赤十字奉仕団 ・東近江市蒲生赤十字奉仕団 ・東近江市湖東赤十字奉仕団 3 「赤十字この一年」DVD鑑賞 4 グループワーク 「奉仕団活動のやりがいとは」 5 グループワーク発表 6 パネルディスカッション 「各地域の防災への取り組みを進めよう」 7 日本赤十字社の組織と活動資金の募集について 8 赤十字奉仕団事務取扱について 9 滋賀県赤十字奉仕団親睦研修旅行日程調整

エ 赤十字奉仕団男性団員交流研修会

開催日	出席者	会 場	内 容
7月17日	男性団員46人 常任委員 7人 指導講師 3人	コラボしが21	1 赤十字と奉仕団活動 2 「赤十字この一年」DVD鑑賞 3 日本赤十字社の組織と活動資金について 4 活動事例発表 ・守山市赤十字奉仕団 ・高島市新旭赤十字奉仕団 5 「赤十字ボランティア」～それは、私の生きる力～ 防災支援赤十字奉仕団委員長 中村 準一 氏 6 グループワーク 「災害から地域を守るために私たちができること」 7 グループワーク発表 「グループワークに参加して」

オ 赤十字奉仕団中央委員会

開催日	出席者	会 場	内 容
7月3日 ～4日	県支部 委員長	日本赤十字社 本社	1 中央委員会副委員長等の改選 2 各ブロック赤十字奉仕団委員長会議等の報告 3 日本赤十字社創立150周年に向けて 4 赤十字ボランティアの活動の活性化および 参加促進にかかる取組み 5 事例検討会 6 ワークショップ「赤十字健康生活支援講習 について」講義・実技体験 7 2日間のまとめ

カ 赤十字奉仕団中央委員会常任委員会

開催日	出席者	会 場	内 容
11月28日	県支部 委員長	日本赤十字社 本社	1 令和8年度赤十字奉仕団中央委員会 日程案 について 2 同委員会テーマについて

キ 赤十字奉仕団指導講師研修会

開催日	出席者	会 場	内 容
2月13日 ～15日	指導講師1人	日本赤十字社 本社	1 日本赤十字社ボランティアのこれから 2 研修① 研修の考え方・研修手法 3 研修②「赤十字」の講座展開 4 研修③ プレゼンテーションを学ぶ 5 研修④「ボランティアと奉仕団」の講座展開 6 研修⑤「グループ・リーダーシップ」の講座 展開 7 研修⑥ 研修を深める 8 研修⑦ 講座展開案の作成

ク 赤十字奉仕団一日研修会

奉仕団員の意識を高揚し、真の奉仕者組織としての健全な奉仕団の育成を期するため、14郡市地区が、それぞれの主催で一日研修会を開催し、団活動についての講演、DVD上映、事例発表等を行いました。

地区別	開催日	人数（人）	地区別	開催日	人数（人）
大 津 市	10月31日	134	長 浜 市	11月10日	251
近江八幡市	11月12日	243	草 津 市	12月11日	97
守 山 市	10月23日	153	栗 東 市	5月22日	85
甲 賀 市	9月27日	121	野 洲 市	7月12日	75
湖 南 市	10月29日	40	高 島 市	7月15日	110
東 近 江 市	11月6日	422	米 原 市	10月17日	103
東 近 江	11月11日	71	湖 東	11月7日	114

ケ 赤十字奉仕団広報紙の発行

発 行 日	発 行 号	発行部数（部）
11月25日	第70号	15,800
3月15日	第71号	15,800

コ 重点目標事業の推進

赤十字奉仕団重点目標に関連した奉仕団活動の活性化を図るため、3団を対象奉仕団として指定し、助成を行いました。

実 施 期 間	奉仕団名	交付額（円）
令和6年4月1日～令和8年3月31日	長 浜 市 長 浜	25,000
	東 近 江 市 湖 東	25,000
	東 近 江 市 蒲 生	25,000
合 計		75,000

サ 防災・減災啓発活動事業の推進

災害に強い地域づくりを推進することを目的とし、奉仕団が主体となって自治会、まちづくり協議会等と協働で行う防災・減災啓発事業に対して、助成を行いました。（6団）

実 施 期 間	奉仕団名	交付額（円）
令和7年7月1日～令和8年3月31日	守 山 市	30,000
	野 洲 市 中 主	30,000
	高 島 市 今 津	30,000
	高 島 市 朽 木	30,000
	高 島 市 新 旭	30,000
	東近江市能登川	30,000
合 計		180,000

シ 滋賀県赤十字奉仕団親睦研修旅行

実施日	参加者	宿泊地	研修テーマ・訪問施設
8月21日 ～9月24日	奉仕団員 997人	三重県 伊勢方面	《日本4大公害の四日市公害を研修・豊かな環境を未来に引き継ぐために》 ・伊勢志摩温泉 賢島宝生苑 ・四日市公害と環境未来館

ス 地域赤十字奉仕団特設サイトの運用

奉仕団への入団促進と団活動の活性化を目的に運用している「地域赤十字奉仕団特設サイト」において、各団および各地区における特色ある取組みを紹介する記事を掲載しました。

セ 赤十字奉仕団指導講師連絡会議

開催日	出席者	会 場	内 容
5月26日	指導講師4人 県支部委員長	滋賀県支部 会議室	1 令和7年度赤十字奉仕団男性団員交流研修会のプログラムの企画・立案、担当分けについて
3月2日	指導講師5人 県支部委員長	滋賀県支部 会議室	1 赤十字奉仕団指導講師研修会について（報告） 2 令和8年度赤十字奉仕団委員長会議・研修会等研修プログラムの企画・立案、担当分けについて

ソ 地域赤十字奉仕団と防災支援赤十字奉仕団の連携強化会議

各地域の防災力の向上を目指すとともに、奉仕団同士の横断的な繋がりを強化することを目的として開催しました。

開催日	参加者	会 場	内 容
8月27日	両奉仕団の 正副委員長 6人	滋賀県支部 会議室	1 地域赤十字奉仕団が重点目標に掲げている「3. 防災・減災・感染症予防への取り組み」（令和7年度時点）を進めるために、今求められることとは 2 防災支援赤十字奉仕団員が、各地域の防災力を高めるための活動を推進する場合、どのような取り組みが考えられるのか 3 地域赤十字奉仕団と防災支援赤十字奉仕団が連携して、地域防災力の向上のために取り組めることとは 4 今後に向けて

タ これからの赤十字奉仕団ボランティア検討委員会

人口減少、地域コミュニティの衰退等の社会環境の変化を踏まえ、災害時や平時の地域の課題解決に資するボランティア活動の拡充を図るため、赤十字奉仕団等ボランティアの維持増強並びに活動を活性化するための実践的なボランティア活動等の方向性を検討する「これからの赤十字奉仕団ボランティア検討委員会」に赤十字奉仕団滋賀県支部委員会委員長が出席しました。

開催日	会 場	内 容
(第1回) 9月3日	日本赤十字社 本社	1 赤十字ボランティアの活動の活性化および参加促進にかかる基本方針（案）について 2 赤十字ボランティアの活動の活性化および参加促進にかかる行動計画（案）について
(第2回) 3月24日	(文書審議)	1 赤十字ボランティアの活動の活性化および参加促進にかかる行動計画案の追記修正事項について

チ 赤十字奉仕団結成75周年記念滋賀県赤十字奉仕団表彰式

滋賀県赤十字奉仕団結成75周年を記念し、奉仕団および奉仕団員の育成に尽力された団員の功績をたたえて功労表彰を行うとともに、奉仕団活動の維持・強化を図ることを目的として開催しました。

開催日	参加者	会 場	内 容
11月17日	受章者 79人 来 賓 4人	コラボしが21	- 奉仕功労表彰 日本赤十字社表彰 9 人 (金色有功章 4 人・銀色有功章 5 人) 日本赤十字社滋賀県支部長表彰 (49団・18人) 赤十字奉仕団滋賀県支部委員長表彰 (29人) - 特別記念講演 「人が困っていると知った時。」～14歳でホームレス問題に出会って、19歳で起業へ～ 認定NPO 法人Homedoor(ホームドア)理事長 川口 加奈 氏

(3) 青年赤十字奉仕団の活動

事 業 名	開催日	参加人員 (人)	場 所
令和 7 年度青年赤十字奉仕団全国協議会 (Web 会議)	5 月17日	2	参加者自宅
第 1 回滋賀県赤十字奉仕団研修会	5 月25日	2	滋賀県支部
青年赤十字奉仕団第 4 ブロック協議会 代表者会議	5 月25日	1	奈良県支部
第 1 回連絡協議会	7 月14日	5	滋賀県支部
第 2 回連絡協議会	10月 7 日	6	滋賀県支部
第 4 ブロック青年赤十字奉仕団 リーダー養成研修会	11月15日 11月16日	1	大和郡山市南部公民館
海外たすけあい街頭募金活動	12月13日	6	JR 草津駅
「はたちの献血」キャンペーン	1 月12日	11	ブランチ大津京
第 3 回滋賀県赤十字奉仕団研修会	1 月24日	1	滋賀県支部
第 3 回連絡協議会	3 月 9 日	8	滋賀県支部
青年赤十字奉仕団第 4 ブロック協議会 役員会	3 月14日	1	奈良県支部
しがわーくフェスタ2025	3 月21日	5	草津市 YMIT アリーナ

※第 2 回滋賀県赤十字奉仕団研修会と令和 7 年度青年赤十字奉仕団全国協議会（第 2 回）（Web 会議）については参加者なし。

(4) 滋賀県防災支援赤十字奉仕団の活動

令和7年度においては、防災学習の指導、研修会への参加など活動を展開しました。

主な活動は下表のとおりです。

○研修・訓練・会議等

研修・訓練・会議名	開催日	参加人員 (人)	場 所
赤十字無線救護奉仕団第4ブロック 連絡協議会役員会議	4月5日	2	日本赤十字社大阪府支部
定期総会	5月25日	26	日本赤十字社滋賀県支部
第1回奉仕団研修会	5月25日	23	日本赤十字社滋賀県支部
防災教育事業主任指導者研修	5月30日	1	WEB
第4ブロック合同災害救護訓練	6月7日	7	高槻赤十字病院
防災ボランティアリーダー養成研修	7月26日	1	WEB
地域赤十字奉仕団と防災支援赤十字 奉仕団との連携強化会議	8月27日	3	日本赤十字社滋賀県支部
東近江市総合防災訓練	9月7日	5	東近江市おのの運動公園
第2回奉仕団研修会	9月20日	27	大津赤十字病院
防災教育事業主任指導者研修	10月20日 ～21日	1	日本赤十字社本社
赤十字体験バス（第1回）	10月22日	3	滋賀県赤十字血液センター
大津市総合防災訓練事前会議	11月4日	3	日吉台市民センター
大津市総合防災訓練	11月9日	5	日吉台市民センター
滋賀県原子力災害訓練	11月15日	3	長浜市（湖北体育館他）
赤十字奉仕団結成75周年記念滋賀県 赤十字奉仕団表彰式	11月17日	3	コラボしが21
赤十字体験バス（第2回）	11月19日	3	滋賀県赤十字血液センター
みんなのルシオールカーニバル	11月23日	3	守山市民ホール
第3回奉仕団研修会	1月24日	24	日本赤十字社滋賀県支部
大津赤十字病院傷病者受入訓練	2月21日	11	大津赤十字病院
防災教育事業主任指導者研修及び フォローアップ研修	3月5日	1	WEB
しがワークフェスタ	3月21日	12	草津市 YMIT アリーナ

※上記のほか、滋賀県防災支援赤十字奉仕団の役員会をWEB会議で9回開催。

○防災学習

対 象	開催日	参加人員 (人)	場 所
湖北赤十字奉仕団	4月22日	1	湖北福祉ステーション
北里学区まちづくり協議会	5月31日	8	近江八幡市立北里小学校
滋賀県JRC 高校連絡協議会	6月5日	6	滋賀県危機管理センター
近江八幡市赤十字奉仕団 岡山分団	6月14日	1	岡山コミュニティセンター
東近江市防災危機管理課	6月15日	4	東近江市役所

東近江市立蒲生北小学校	6月16日	2	東近江市立蒲生北小学校
八幡学区まちづくり協議会	6月28日	10	近江八幡市立八幡小学校
東近江市立五個荘中学校	7月1日	9	東近江市立五個荘中学校
東近江市立蒲生北小学校	7月1日	3	東近江市立蒲生北小学校
滋賀県立長浜北高等学校	7月3日	5	滋賀県立長浜北高等学校
東近江市立蒲生北小学校	7月4日	3	東近江市立蒲生北小学校
滋賀県JRC指導者協議会	7月8日	4	甲賀市勤労青少年ホーム
びわこ学院大学	7月10日	2	びわこ学院大学
甲良町社会福祉協議会	7月11日	7	甲良町保健福祉センター
滋賀県立八日市南高等学校	7月15日	4	滋賀県立八日市南高等学校
東近江市防災危機管理課	7月26日	3	東近江市役所
甲賀市甲賀町赤十字奉仕団	7月26日	4	甲賀市かふか生涯学習館
伊吹放課後児童クラブいぶきっ子	7月29日	3	米原市立春照小学校
滋賀県JRC指導者協議会 リーダーシップ・トレーニング・センター	8月4日	7	甲賀市勤労青少年ホーム
栗東赤十字奉仕団葉山分団	8月21日	4	コミュニティーセンター葉山東
びわふえす（滋賀医科大学サークル）	8月22日	3	滋賀医科大学
守山市立河西会館・河西公民館	9月11日	6	滋賀県危機管理センター
東近江市立蒲生東小学校	9月12日	9	東近江市立蒲生東小学校
東近江市永源寺赤十字奉仕団	9月21日	6	永源寺運動公園
水戸学区自主防災会	9月21日	5	湖南市水戸小学校体育館
守山市消費生活学習会	9月29日	2	守山市民交流センター
守山市木浜自治会	10月5日	5	守山市立速野小学校体育館
多賀町社会福祉協議会	10月9日	6	多賀町総合福祉保健センター
多賀町社会福祉協議会	10月23日	4	多賀町総合福祉保健センター
守山市赤十字奉仕団	10月23日	2	守山市民会館小ホール
甲賀市甲賀町赤十字奉仕団神班	10月26日	4	里山かむら交流館婦人の家
びわこ学院大学	10月28日	4	びわこ学院大学
若草2丁目町内会	11月1日	2	志津南まちづくりセンター
甲賀市甲賀町赤十字奉仕団神保班	11月2日	4	神保自治会館
子育てサロンここ愛	11月6日	3	栗東市古民家
甲賀市甲賀町赤十字奉仕団相模班	11月8日	3	草の根ハウス相模会館
甲賀市水口町赤十字奉仕団	11月10日	3	甲賀市柏木コミュニティセンター
多賀町社会福祉協議会	11月12日	4	多賀町総合福祉保健センター
近江八幡市赤十字奉仕団	11月12日	2	近江八幡市文化会館
甲良町立甲良中学校	11月14日	6	甲良町立甲良中学校
大津市立堅田中学校	11月21日	7	大津市立堅田中学校
近江八幡市長命寺自治会	11月23日	6	長命寺草の根ハウス
甲賀市甲賀町赤十字奉仕団隠岐班	11月30日	3	隠岐憩いの家
大津市立中央小学校PTA	12月7日	4	大津市中央支所

八日市南・八日市高校・滋賀学園、 能登川高等学校（４校合同）	12月10日	10	滋賀県立八日市高等学校
レックス式番館自治会	12月14日	5	レックス式番館集会室
近江八幡市赤十字奉仕団	12月23日	2	近江八幡市総合福祉センター
日野町立必佐小学校	1月15日	4	日野町立必佐小学校
日野町立必佐小学校	1月16日	4	日野町立必佐小学校
公益財団法人滋賀県希望が丘文化公園	1月18日	2	滋賀県立希望が丘野外活動センター
大津市社会福祉協議会	1月31日	5	明日都浜大津

(5) 滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団の活動

ア 滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団役員会

開催日	参加者数	会 場	内 容
5月28日	9人	日赤滋賀県支部 会議室	【報告事項】 令和6年度事業報告並びに収支決算について 令和6年度青少年赤十字加盟状況について 役員改選 【協議事項】 令和7年度事業計画（案）並びに収支予算（案） について その他
1月8日	7人	日赤滋賀県支部 会議室	【報告事項】 令和7年度事業報告並びに収支決算見込みにつ いて 令和7年度賛助奉仕団員の入団・退団状況につ いて 県内の青少年赤十字加盟状況について 【協議事項】 賛助奉仕団員増加に向けて その他

イ 滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団総会

開催日	参加者数	会 場	内 容
5月28日	10人	日赤滋賀県支部 会議室	【協議事項】 令和6年度事業報告並びに収支決算報告 令和7年度事業計画（案）並びに収支予算（案） 役員改選 その他 【報告事項】 滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団活動推進委員会 の報告 滋賀県青少年赤十字指導者協議会関係の報告

ウ その他の会議、行事参加

開催日	出席者数	会 場	事 業
4月9日	3人	日赤滋賀県支部 会議室	第1回滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団委員長副 委員長会の開催
6月4日	3人	日赤滋賀県支部 会議室	滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団活動推進委員会 の開催
7月8日 ～9日	1人	日本赤十字社本社	全国青少年赤十字賛助奉仕団協議会総会
7月16日	3人	日赤滋賀県支部 会議室	第2回滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団委員長副 委員長会の開催
8月4日 ～5日	1人	甲賀市 勤労青少年ホーム 共同福祉施設	滋賀県青少年赤十字リーダーシップトレーニング・ センターへの出席
10月10日	3人	日赤滋賀県支部 会議室	第3回滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団委員長副 委員長会の開催
10月23日 ～24日	県内20人 県外20人	守山市立守山小学校 滋賀県立琵琶湖博物館	第4ブロック青少年赤十字賛助奉仕団交流研修 会の開催
11月19日	3人	近江八幡市立 島小学校	JRC研究推進委嘱校研究発表会への参加
2月13日	3人	日赤滋賀県支部 会議室	滋賀県青少年赤十字指導者協議会郡市部長会へ の出席

エ 滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団広報紙「JRC賛助奉仕団しが」の発行

開催日	号 数	部数(部)	内 容
9月20日	第42号	400	令和7年度滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団事業計画 滋賀県青少年赤十字研究推進委嘱校研究発表会案内 令和7年度総会の報告・役員改選 青少年赤十字の現況
3月10日	第43号	400	第4ブロック青少年赤十字賛助奉仕団交流研修会の報告 滋賀県青少年赤十字研究推進委嘱校研究発表会参加報告 青少年赤十字指導者協議会との連携強化に向けて

(6) 個人ボランティア

赤十字事業の推進を目的として、赤十字病院、血液センターなど県内の各赤十字施設に登録しているボランティアが活動しています。

施 設 名	人数・ グループ	活 動 内 容
大 津 赤 十 字 病 院	18人・ 4グループ	総合案内のお手伝いや長等文庫(図書)の貸し出し、 衛生材料の整理、院内コンサート (令和7年度は活動休止)
大 津 赤 十 字 志 賀 病 院	1人	園芸(施設内除草、花の管理)
長 浜 赤 十 字 病 院	46人・ 4グループ	外来患者の案内、入浴介助、図書整理、入院患者 の療養生活支援
滋賀県赤十字血液センター	67人	献血者への文書発送手伝い、献血者処遇品の準備など

8 青少年赤十字

青少年のうちから赤十字の精神を養い、世界各国の青少年と手を結んで健康と安全の増進、国際親善などの行いによって青少年の健全育成を図るため、小・中・高等学校の児童、生徒等を対象として学校内で組織されたものが青少年赤十字であります。現在世界の赤十字加盟は191の国と地域となっていますが、その多くで青少年赤十字が取り入れられています。

(1) 加盟校の状況

区 分	校 種 別	令和7年度	前年度比
園、学校数	幼稚園等	11	2
	小学校	163	△1
	中学校	49	2
	義務教育学校	2	0
	高等学校	16	3
	特別支援	2	1
	総 数	243	7
学級または グループ数	幼稚園等	54	△1
	小学校	2,132	△92
	中学校	620	△28
	義務教育学校	22	4
	高等学校	191	94
	特別支援	70	9
	総 数	3,089	△14
児童・生徒数 (人)	幼稚園等	1,119	△49
	小学校	50,857	△454
	中学校	18,486	△712
	義務教育学校	449	121
	高等学校	5,605	2,865
	特別支援	496	94
	総 数	77,012	1,865

(2) 青少年赤十字指導者協議会郡市支部長会の開催

開催日	会 場	出席者数	協 議 事 項
6月24日	G-NETしが 男女共同参画 センター	8人	【報告事項】 1 令和6年度青少年赤十字事業報告について 【協議事項】 1 令和7年度青少年赤十字事業計画(案)について 2 役員改選(案)について
2月13日	日赤 滋賀県支部 会議室	7人	【報告事項】 1 令和7年度青少年赤十字事業報告について 2 青少年赤十字研究推進委嘱校の研究報告書について 【協議事項】 1 令和8年度青少年赤十字事業計画(案)について 2 その他 ・滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団並びに滋賀県 青少年赤十字指導者協議会との連携について

(3) 本社およびブロック主催の講習会、研修会開催状況

区 分	主 催	開催日	開催場所	参 加 者
リーダーシップ・トレーニングセンター指導者養成講習会	日本赤十字社 本社	5月30日 ～ 6月1日	国立オリンピック 記念センター	県内参加者1人
指導主事対象青少年赤十字研究会	日本赤十字社 本社	8月6日	日本赤十字社本社 会議室	指導主事1人
青少年赤十字近畿ブロック指導者研修会	日赤 大阪府支部	9月15日	大阪・関西万博	県内参加者2人

(4) 支部主催のトレーニングセンター開催状況

区 分	開催日	開催場所	参 加 者
リーダーシップ・トレーニングセンター指導者事前打合せ会	7月22日	甲賀市 勤労青少年ホーム・ 共同福祉施設	指導部長、顧問、指導者
第59回滋賀県青少年赤十字リーダーシップ・トレーニングセンター	8月4日 ～5日	甲賀市 勤労青少年ホーム・ 共同福祉施設	小学生58人、中学生14人、 高校生4人、 スタッフ等17人

(5) その他の会議・行事等

区 分	開催日	会 場	出席者数	備 考
第1回指導部役員会	5月16日	日赤滋賀県支部 会議室	8人	・令和6年度事業報告 ・令和7年度事業計画(案) ・リーダーシップ・トレーニングセンターについて

第1回滋賀県青少年 赤十字高校生連絡協 議会	6月5日	滋賀県危機管理 センター	41人	- 各学校の活動紹介 - 役員選出 - 赤十字防災セミナー体験
滋賀県青少年赤十字 第77回定期総会並び に研修会	6月24日	G-NEしが 男女共同参画 センター	25人	- 加盟校表彰 - 令和6年度事業報告 - 令和7年度事業計画（案） - 役員改選 - 講演 「「気づき 考え 実行する子」 をめざして」 長浜市立北郷里小学校 校長 梶本 幸氏
青少年赤十字全国指 導者協議会・総会	7月4日	日本赤十字社 本社	1人 (会長)	- 役員改選 - 報告事項 - 講演 - グループディスカッション
滋賀県青少年赤十字 指導者研修会	7月8日	甲賀市勤労青少 年ホーム	14人	- リーダーシップ・トレーニ ングセンター指導者養成講 習会のフィードバック - 赤十字防災セミナー体験
第2回滋賀県青少年 赤十字高校生連絡協 議会	11月6日	滋賀県危機管理 センター	29人	- 各校の活動状況について - ワークショップ - 講演
第48回青少年赤十字 研究推進委嘱校発表 会	11月19日	近江八幡市立 島小学校	51人	- 研究主題「ふるさとに誇り を持ち島学区の良さを見つ けようとする子の育成 ～自ら課題を見出し主体的 に学び行動する姿を生み出 す授業の創造～」 - 児童発表 - 公開授業「総合的な学習」 - 研究発表 - 指導講話
第2回指導部役員会	12月16日	日赤滋賀県支部 会議室	9人	- 令和7年度事業報告 - 令和8年度事業計画（案） - リーダーシップ・トレーニ ングセンターについて
青少年赤十字スタ ディー・センター	3月22日 ～26日	山梨県東照館	2人	- 赤十字と青少年赤十字につ いて - グループの活動・運営につ いての学習と実習 - 国際理解 - 問題の発見・解決の実習 - 新たな青少年赤十字活動の 計画

(6) 青少年赤十字メンバー・加盟校応援プロジェクト事業

青少年赤十字加盟校が行う自主的かつ意欲的な実践活動を支援し、その活動成果を広く普及することにより、青少年赤十字活動の一層の振興を図ることをねらいに実施し、下記のとおり助成を行いました。

区 分	件 数 (件)	助 成 額 (円)
小 学 校	4	200,000
中 学 校	1	50,000
合 計	5	250,000

(7) 青少年赤十字機関紙「JRC しが」の発行

滋賀県内の青少年赤十字活動を広く周知するため、JRC しが (No.31) を4月1日に発行し、県内の全小中高等学校等に配布して普及に努めました。

9 看護師の教育

赤十字看護師の教育は、明治29 (1896) 年からの長い歴史と伝統を誇る重要な事業の一つであり、災害救護業務の要員を確保するとともに、医療施設の要員充足をはかり、併せて看護師不足に対応すべく優秀な看護師を社会に送り出すことを目的としています。

大津赤十字看護専門学校は大津市小関町に設置され、1学年養成定員を40人とし、本年度は下記のとおり養成しました。

令和7年度の養成人員			
1 年	2 年	3 年	計
33人	27人	34人	94人

(令和8年3月31日時点)

10 国際活動

(1) 「NHK 海外たすけあい」キャンペーンの実施

12月1日から25日の間、令和7年度「NHK 海外たすけあい」キャンペーンを本社・支部・赤十字病院・血液センター、NHK 各放送局、全国の郵便局、各金融機関等の協力を得て実施しました。

本キャンペーンの募金額は下記のとおりですが、この資金をもとに、日本赤十字社は世界各地の紛争や自然災害、病気で苦しむ人々に対して救援事業や開発協力事業を行いました。

実績内訳

区 分		件 数 (件)	金 額 (円)
滋賀県	支部・施設等窓口扱い分	1,259	1,509,033
	本社扱い	356	4,952,706
全 国	支部・施設等窓口扱い分	33,277	85,201,847
	本社扱い分	48,551	787,121,849
	合 計	81,828	872,323,696

(2) 令和7年度第4ブロック合同国際人道法普及研修への参加

1月28日、日本赤十字社第4ブロック合同による同研修がオンライン形式で開催され、県内各赤十字支部・施設から12人（滋賀県支部4人、大津赤十字病院3人、大津赤十字志賀病院3人、滋賀県赤十字血液センター2人）が参加しました。

11 赤十字思想の普及

赤十字の理念や赤十字の活動について県民の理解を深め、一層の協力を得るため、5月の運動月間をはじめ、年間を通じて広報活動を展開しました。

(1) 本社作成の広報資材の配布

名 称	作製目的・主な内容	主な配布（視聴）対象
活動紹介用リーフレット	赤十字活動のPRと会員募集 (5,500部)	地区・分区、各施設 活動資金協力者ほか
赤十字運動用PRポスター	赤十字活動のPRと会員募集 (6,250部)	地区・分区、各施設ほか
赤十字NEWS	日本赤十字社広報紙 (32,900部)	赤十字関係者
全国統一会員誌	会員への情報提供 (11,261部)	赤十字会員
活動紹介DVD	日本赤十字社活動紹介DVD 「赤十字この1年」	地区・分区、各施設

(2) 支部作成の広報資材の配布

名 称	作製目的・主な内容	主な配布（視聴）対象
活動資金募集用チラシ	赤十字活動のPRと会員募集 (450,000部)	一般
支部広報誌「赤十字しが」	滋賀県支部の事業実施状況報告 (13,500部)	赤十字会員、奉仕団、 地区・分区、各施設ほか
赤十字PRパネルB0版	赤十字活動のPRと会員募集	各施設
事業報告書	滋賀県支部の事業実施状況報告	支部役員・評議員、 地区・分区、各施設
ポケットティッシュ	赤十字活動PRと地域奉仕団員 募集（43,450個）	地区・分区、奉仕団、各施設

(3) 主な広報活動

ア テレビスポットによる広報

びわ湖放送株式会社様のご協力を得て、以下のとおりテレビスポットによる広報を実施しました。

- ・期間 5月1日～31日（6月以降も放映）
- ・TV-CM 15秒／30秒

イ ラジオスポットによる広報

株式会社エフエム滋賀様のご協力を得て、以下のとおりラジオスポットによる広報を実施しました。

- 期間 5月1日～31日（6月以降も放送）
- ラジオCM 2タイプ／各20秒

ウ JR駅構内でのB2ポスターの掲出

- 期間 5月1日～7日

エ 京阪電車への広告の掲出

- 期間 2月1日～1月31日（年間）

オ 赤十字運動月間B2、B3ポスターの掲出

協力企業・団体（61社）

- 期間 5月1日～31日

株式会社フタバ彦根店、株式会社イチバンコーポレーション、近江トラベル株式会社、近江鉄道株式会社、土山ハイウェイサービス株式会社、八幡山ロープウェー、オーミマリン
(順不同・敬称略)

- 期間 5月1日～6月30日

株式会社平和堂、アクア株式会社、株式会社アルファーホープス、上田産業株式会社、エコヤードルートワン株式会社、近江ユニキャリア株式会社、大塚オーミ陶業株式会社、株式会社川嶋機械、関西ハム株式会社、岐建株式会社滋賀支店、北村興産株式会社、近畿エイブル株式会社、近畿化学工業株式会社、株式会社近畿理研、草津電機株式会社、熊谷電工株式会社、甲賀高分子株式会社、甲賀システム株式会社、小林金属株式会社守山工場、有限会社小南電機、有限会社三王都市開発、三協高圧株式会社、三陽建材株式会社、三陽建設株式会社、三陽輸送株式会社、三和産業株式会社、株式会社シガウッド、株式会社滋賀銀行、一般財団法人滋賀県民間福祉振興財団、滋賀双葉ビル整備株式会社、滋賀TCM株式会社、株式会社シゲタ、杉橋建設株式会社、大進モーター株式会社、株式会社田中誠文堂、中央環境サービス株式会社、株式会社寺嶋製作所、有限会社天平フーズ、株式会社東洋石創、株式会社トーカイ、株式会社内藤建築事務所、南久ちりめん株式会社、西村建設株式会社、日本ソフト開発株式会社、花文造園土木株式会社、株式会社濱崎銃砲火薬店、ピー・エス・コンクリート株式会社滋賀工場、ビル管財株式会社、株式会社フジケン、株式会社藤田、有限会社宮川自工、株式会社村田組、山豊テグス株式会社、株式会社和光製作所

(順不同・敬称略)

カ 横断幕の掲出

- 場所 浜大津アーカス付近にある歩道橋
- 内容 「人間を救うのは、人間だ」
- 期間 4月1日～5月30日

キ SNS（Instagram）を利用した広報活動

幅広い年代に赤十字の活動を身近に感じてもらえるよう、活動紹介や事業の発信を行いました。また、認知度の拡大、フォロワーの増加を目的として、5月の赤十字運動月間と9月の防災月間において、ハッシュタグキャンペーンを実施しました。

ク 懸垂幕の掲出

- ・場所 日本赤十字社滋賀県支部事務所ビル横
- ・内容 「あなたの赤十字活動へのご寄付がいのち 健康 尊厳 を守ります。」

ケ 支部ホームページの充実

当支部をはじめとする日本赤十字社の仕組みや成り立ち、救急法等の健康・安全講習の案内、赤十字奉仕団や青少年赤十字等の活動紹介など、多彩な活動情報を定期的にお届けすることに努めました。

(4) 広報資材の使用・貸出し

赤十字広報パネルの全面リニューアルを実施するとともに「子ども用救護服」を新たに整備しました。これらを広報イベントで活用するとともに、地区・分区および赤十字奉仕団へ貸与し、赤十字をより身近に感じていただけるようPR活動に努めました。

貸し出し件数

- ・広報パネル 26件
- ・子ども用救護服 4件

(5) 赤十字体験バスの開催

滋賀県赤十字血液センターを会場に地域で赤十字活動資金の募集等に携わっていただいている自治会役員等の地域コミュニティのリーダーを対象に、赤十字活動の説明や施設見学、救急法等の講習体験等を通じて、赤十字の理念や活動の理解を深めていただくことを目的に開催しました。

対象	開催日	参加者数	内容
東 近 江 市 地 区 (伊庭町自治会)	10月20日	33人	・赤十字活動の説明 ・赤十字災害救護活動および災害救援物資等の説明 ・災害時の非常食（ハイゼックス）体験 ・支部災害救護倉庫の説明 ・献血活動の説明 ・赤十字防災セミナー体験
東 近 江 市 地 区 (北菩提寺町自治会・ 長町自治会)	11月19日	23人	・赤十字活動の説明 ・赤十字災害救護活動および災害救援物資等の説明 ・災害時の非常食（ハイゼックス）体験 ・支部災害救護倉庫の説明 ・献血活動の説明 ・赤十字防災セミナー体験

(6) 「ACTION！防災・減災」の実施

「ACTION！防災・減災」は、東日本大震災から10年が経つ令和3年3月11日を機に、改めて日本赤十字社から防災・減災のメッセージを打ち出し、「風化防止」や「復興支援」ととどまらず、未来に目を向けた「防災・減災への備え」を訴求し、防災意識を高める取り組みを引き続き実施しました。

ア 期間：令和8年3月1日～3月31日

イ キャンペーンの内容

① 寄付による支援

本キャンペーンの実施にあたり、以下の企業・団体からご寄付によるご支援をいただきました。

○ご支援いただいた企業・団体等（16社）

三陽建材株式会社、滋賀双葉ビル整備株式会社、三協高圧株式会社、株式会社田中誠文堂、甲賀高分子株式会社、三和産業株式会社、株式会社川嶋機械、株式会社内藤建築事務所、ビル管財株式会社、株式会社近畿理研、近畿化学工業株式会社、有限会社宮川自工、株式会社フジケン、滋賀TCM株式会社、三陽輸送株式会社、近江ユニキャリア株式会社
(順不同・敬称略)

② ポスター掲示

期間中、以下の企業・団体等の事業所などにポスターを掲出していただきました。

○ご賛同いただいた企業・団体等（9社）

三和産業株式会社、株式会社川嶋機械、株式会社シガウッド、ビル管財株式会社、三協高圧株式会社、滋賀双葉ビル整備株式会社、甲賀高分子株式会社、近江ユニキャリア販売株式会社、社会福祉法人米原市社会福祉協議会
(順不同・敬称略)

(7) 滋賀県赤十字血液センターとのイベント共同企画

7月28日、同施設にて、小学生を対象とした学習イベント「赤十字キッズアクションデー2025」を開催しました。献血の大切さや防災・減災の考え方を身につけてもらうきっかけを提供することを目的とし、小学生10人が参加されました。滋賀県支部は、赤十字についての説明のあと、「ぼうさいまちがいさがし きけんはっけん！」を行いました。

(8) 大阪・関西万博（赤十字パビリオン）のスタッフ派遣

大阪・関西万博の赤十字パビリオンにおいて、来場者に向けて「わたしの“できる”は、誰かのためになる。」をテーマに、赤十字運動への理解促進と人道的行動のきっかけを提供しました。本事業には滋賀県支部をはじめ、大津赤十字病院、大津赤十字志賀病院、長浜赤十字病院、滋賀県赤十字血液センターの職員、大津赤十字看護専門学校の学生、県内の赤十字ボランティアが参加し、パビリオン運営に携わりました。

- ・派遣期間：4月3日～10月13日（プレ開催含む189日間）
- ・派遣人数：のべ86人

(9) 支部創立130周年機運醸成の取り組み

令和7年度に支部創立130周年を迎え、令和8年度の滋賀県赤十字大会開催に向けて、機運醸成を図るための広報活動を展開しました。

ア ロゴ作成

ノベルティグッズの作成、広報物等に使用しPR

イ 短編動画（YouTube広告等）の作成

広告としてYouTube動画等に表示させるために作成

ウ 卓上ミニのぼりの作成

地区・分区窓口、県内各赤十字施設の募金箱横等に設置

エ 130周年ポスターの作成

地区・分区、県内各赤十字施設、協力企業等に掲示

12 有 功 会

日本赤十字社滋賀県支部有功会は、金色有功章を受章され、趣旨に賛同された方々により、昭和48年10月1日、会員58人で発足しました。平成9年から銀色有功章受章者まで会員範囲を拡大し、会員相互の親睦や健康の保持、赤十字思想の普及と重要業務の進展に協力、人類福祉の増進に寄与することに努めています。

(1) 会員の数（個人・法人）

前年度末会員数	本年度新規会員数	退 会 者 (亡くなられた方を含む)	年度末会員数
320人	8人	17人	311人

(2) 事業内容

ア 有功会総会の開催

7月11日（金）10時より琵琶湖ホテルにおいて開催

77人出席

審議内容

- 令和6年度有功会事業並びに収支決算報告書
- 令和7年度有功会事業計画（案）並びに収支予算（案）
- 役員改選

イ アトラクション

～木の楽器が奏でるあたたかな音色とかがやき～

クラリネット&マリンバ

デュオグループ BAUM（バウム）

ウ 会員懇親会

7月11日（金）

総会終了後、同会場にて開催 71人出席

エ 日赤紺綬・有功会会長協議会総会

10月3日（金）15時～20時

佐賀市 ホテルニューオータニ佐賀

オ 会員親睦旅行

12月4日（木）～5日（金） 1泊2日

静岡県方面 焼津温泉「ホテルアンビア松風閣」 19人参加

カ 会員健康診断

	2日（1泊）	1日
大津赤十字病院	17人	52人
長浜赤十字病院	4人	7人
合 計	21人	59人

キ 大津赤十字看護専門学校卒業生に卒業記念品の贈呈

令和7年度大津赤十字看護専門学校卒業生30人に卒業記念品〔ハートラちゃん 災害・緊急時用トイレセット アートトワレ（5回分）〕を贈呈しました。

ク 青少年赤十字活動支援

滋賀県支部主催の「青少年赤十字メンバートレーニングセンター」参加メンバーと指導者計93人に対し、参加記念品（糸杉コットンバッグ、クリアファイル、リングメモ帳）を贈呈しました。

ケ 災害救護活動支援

災害時および救護班研修時等に携行する物品（ウェアラブルカメラ）を滋賀県支部へ寄贈しました。

コ 国際活動事業の支援

NHK 海外たすけあい 支援金額 30,000円

サ 法人会員による「ACTION！防災・減災キャンペーン」への協力

協力企業 17社（順不同・敬称略）

三和産業 株式会社	株式会社 川嶋機械	ビル管財 株式会社
三協高圧 株式会社	滋賀双葉ビル整備 株式会社	株式会社 フジケン
株式会社 近畿理研	三陽建材 株式会社	三陽輸送 株式会社
株式会社 田中誠文堂	近畿化学工業 株式会社	甲賀高分子 株式会社
滋賀TCM株式会社	株式会社シガウッド	有限会社 宮川自工
株式会社内藤建築事務所	近江ユニキャリア株式会社	

シ 役員会等の開催

2月25日（水）

14時から日本赤十字社滋賀県支部会議室において開催

- ・令和7年度有功会事業報告並びに収支決算について
- ・令和8年度有功会事業計画（案）並びに収支予算（案）について
- ・令和8年度有功会親睦旅行について
- ・その他

13 一般会計決算概要

歳 入

(単位：円)

科目	年度	令和7年度 決 算	令和6年度 決 算	比較増減	対前年度比 (%)	付 記
1 一般社資収入		170,930,358	160,188,744	10,741,614	106.7	
2 法人社資収入		37,362,140	34,913,192	2,448,948	107.0	
3 委託金等収入		0	18,324,620	△ 18,324,620	—	令和6年能登半島地震災害救助費 (R6年度)
4 補助金及び交付金収入		6,854,787	3,424,889	3,429,898	200.1	施設整備交付金、現物給付ほか
5 繰入金収入		493,000	530,000	△ 37,000	93.0	事業準備積立金繰入金(R6年度) 国際救護活動資金繰入金(R7年度)
6 雑収入		3,040,156	2,682,554	357,602	113.3	利子収入、講習等負担金収入、 青少年赤十字等行事参加収入ほか
7 前年度繰越金		40,066,041	63,772,162	△ 23,706,121	62.8	
歳入合計		258,746,482	283,836,161	△ 25,089,679	91.2	

歳 出

(単位：円)

科目	年度	令和7年度 決 算	令和6年度 決 算	比較増減	対前年度比 (%)	付 記
I 災害救護事業費		24,864,263	41,488,454	△ 16,624,191	59.9	
1 災害救護指導事業費		19,439,292	35,751,316	△ 16,312,024	54.4	救護員の養成訓練、災害 救助に要した費用
2 災害救護装備費		2,676,530	2,997,378	△ 320,848	89.3	災害救護資材整備等に要し た費用
3 非常災害救援物資整備費		142,631	0	142,631	—	非常災害救援物資整備等 に要した費用
4 救護看護師指導養成費		2,605,810	2,739,760	△ 133,950	95.1	救護看護師の養成に要した費用
II 社会活動費		43,480,858	40,997,307	2,483,551	106.1	
1 救急法等普及費		12,975,095	10,409,636	2,565,459	124.6	救急法、健康生活支援講 習等の普及費用
2 奉仕団活動費		17,242,172	18,899,090	△ 1,656,918	91.2	奉仕団育成に要した費用
3 青少年赤十字活動費		9,665,692	8,101,807	1,563,885	119.3	青少年赤十字育成に要した費用
4 社会福祉活動費		132,940	102,250	30,690	130.0	社会福祉活動に要した費用
5 医療事業費		97,038	124,510	△ 27,472	77.9	衛生普及に要した費用
6 血液事業費		3,367,921	3,360,014	7,907	100.2	血液事業の普及等に要した 費用
III 国際活動費		493,000	0	493,000	—	国際赤十字社等による救援 活動等に要した費用
IV 指定事業地方振興費		4,993,000	3,000,000	1,993,000	166.4	
1 災害救護設備整備費		4,300,000	2,900,000	1,400,000	148.3	災害救護資機材に要した費用
2 支部国際活動基金積立金		493,000	0	493,000	—	国際赤十字社等による救援活 動等の資金積立に要した費用
3 募集事務費		200,000	100,000	100,000	200.0	社資募集に要した費用
V 地区区分交付金支出		10,631,525	11,072,796	△ 441,271	96.0	地区区分に対する会員管理事 務及び募集事務等に要した費用
VI 社業振興費		23,662,654	19,957,155	3,705,499	118.6	広報及び社資募集に要した費用
VII 基盤整備交付金・補助金支出		17,300,000	7,602,000	9,698,000	227.6	医療施設へ繰り出した費用
VIII 総務・管理費		46,609,699	43,209,359	3,400,340	107.9	給与費、庁舎管理等に要し た費用
IX 本社送納金支出		30,059,924	28,131,290	1,928,634	106.9	本社社資送納金
X その他		56,651,559	88,377,800	△ 31,726,241	64.1	
1 積立金支出		12,751,395	48,311,759	△ 35,560,364	26.4	施設整備準備資金積立金等
2 予備費		0	0	0	—	
3 翌年度繰越金		43,900,164	40,066,041	3,834,123	109.6	
歳出合計		258,746,482	283,836,161	△ 25,089,679	91.2	

Ⅱ 医療事業・医療施設特別会計決算概要

県内3つの赤十字病院において、災害時は、救護活動、平時には一般医療・救急医療・健康相談等医療社会活動を実施し、地域住民の医療確保と福祉の増進に努めています。

1 大津赤十字病院

(1) 診療状況の概要

病床数		職 員 数				入院患者数			外来患者数		
許可病床	実働病床	医師	看護師	その他	計	延人数	一日平均	対前年 平均比	延人数	一日平均	対前年 平均比
(床)	(床)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(%)	(人)	(人)	(%)
602	598	267.0	805.6	482.1	1554.7	189,385	519	97.6	346,388	1,437	99.0

(2) 医療施設の経営状況

令和7年度の医業収益は、新入院患者数の減少や病床稼働率の低下があったものの、全身麻酔を伴う手術件数の増加や高度な診療提供に伴う入院診療単価の向上により、入院診療収益が増加。また、外来診療収益についても診療単価の上昇により増加となりました。一方で、保険等査定減の増加の影響もあり、医業収益全体では前年度から0.6億円の微増となり227.8億円となりました。対する医業費用は、医療職員数の増加および職員全体のベースアップに伴い給与費が増加傾向であったことに加え、今年度の退職給付債務決算整理に係る給与費の戻入金額が前年度を下回ったことから、対前年度で給与費が大幅に増加となりました。さらに、材料費、委託費、設備関係費等も増加し、医業費用全体では前年度から15.1億円増の228.9億円となりました。以上により、医業収支は前年度から14.5億円悪化の1.1億円の赤字決算、総収支においては前年度から8.4億円悪化の7.8億円の黒字決算となりました。

ア 持続可能な経営基盤の構築

令和7年度は、特に手術件数の増加に重点的に取り組みました。各診療部に対し、全身麻酔件数や麻酔枠取得割合の共有を行い、手術室の有効活用を積極的に推進した結果、全身麻酔を伴う手術件数において年間2,900件を達成し、過去最高件数となりました。また、緊急全身麻酔件数も大幅に増加しており、令和8年度からは急性期充実体制加算の届出を行ったことから、増収が見込まれています。さらに、人間ドック料金や室料差額等の実費徴収についても、近隣医療機関の水準を踏まえ、令和8年度から料金改定を実施することとしています。

前年度に引き続き、退職給付債務の戻入により総収支は黒字決算となりましたが、これは非資金性の費用の戻入に対する影響が大きく、実質的な経営改善に向けた取組を引き続き進めてまいります。

イ 質の高い医療と医療サービス強化

令和8年4月に、がんゲノム医療連携病院の認定を受け、令和8年度からの運用に向けた準備を着実に進めるなど、がん医療体制のさらなる充実に努めてまいりました。

患者一人ひとりに応じた最適な治療の提供を目指し、高度な医療に向けた体制整備を進めています。

高度救命救急センターおよび総合周産期母子医療センターとして、高度急性期医療を担う中核病院としての役割を果たすため、医療体制のさらなる充実に継続して取り組みました。救急救命士の積極的な採用や時間外選定療養費の料金改定等を実施し、重症患者の受け入れをより推進し、地域の救急医療体制の強化に努めました。

災害医療においては、滋賀県唯一の基幹災害拠点病院であるとともに、原子力災害拠点病院としての使命を果たすべく、院外で実施される各種訓練への参加、院内での赤十字救護班基礎教育研修会の開催や、大規模災害時の傷病者受入訓練の実施など、有事に備えた対応を継続しました。

医療の質の向上に向けては、チーム医療の推進および医療の質向上の一環として、毎年TQM発表会を開催し、業務の効率化や改善活動に向けた職員の意識向上に努めています。また、情報セキュリティの強化にも継続して取り組んでおり、IT-BCPに基づく訓練を継続的に実施することで、システム障害やサイバー攻撃発生時においても安定した医療提供を継続できる体制づくりを進めています。

患者サービス向上の取り組みとしては、外来患者の利便性向上を目的に、待ち時間の短縮や有効活用を図るため、外来患者向けアプリ導入に向けた検討を進めました。

ウ 地域連携と地域貢献（ブランド力の向上）

地域医療支援病院として、地域包括ケアシステムに貢献し、退院支援においては、患者支援センターを中心にかかりつけ医や後方医療機関とのスムーズな連携を推進しました。

病院の広報誌である「NAGARA 通信」の積極的な普及に取り組むとともに、新たに企業等に向けた広報活動を開始し、地域社会に対する病院の取り組みや役割について幅広い情報発信を行いました。

「眼の健康講座」や「市民のためのがん講座」、「赤十字県民大学」などを継続して実施し、地域住民への健康増進活動の啓発に努めるとともに、SNSを活用した広報活動の強化も図りました。

エ 働きやすい働きがいのある職場環境づくりと人材確保、育成

医師の働き方改革への対応として、タスクシフト・シェアの推進による負担軽減を図り、職員の勤務環境の改善に取り組みました。また、ハラスメントのない職場づくりや職員満足度の向上に向け、職員の意見収集を通じて現場の声を把握し、継続的な改善活動を実施しました。誰もが安心して働き続けることのできる、働きやすく風通しの良い職場環境の実現を目指しています。

病院DXの取り組みとしては、従来のPHSからスマートフォンへの切り替えを進めるとともに、バイタル連携システムを導入するなど、業務効率化に取り組みました。これにより情報共有の迅速化と入力業務の負担軽減を図り、職員がより診療に注力できる環境整備を進めています。今後はRPAや生成AIなどの活用を推進し、定型業務の自動化や事務作業の効率化を進めることで、さらなる業務改善と生産性向上に取り組んでまいります。

(3) 施設等整備

放射線治療装置やPACSシステム（医療用画像管理システム）の更新、計画的なエレベーター改修工事など、病院機能の維持のために必要な整備を進めたほか、2台目となるダ・ヴィンチを導入するなど、診療機能のさらなる向上に向けた整備を実施しました。

(4) 決算概要

収益的収入および支出

(単位：千円)

科 目	令和7年度決算額	令和6年度決算額	比較増減	対前年度比 (%)
病院収益	24,150,757	23,392,780	757,976	103.2
医 業 収 益	22,778,566	22,719,625	58,941	100.3
医 業 外 収 益	1,293,562	603,239	690,324	214.4
医療社会事業収益	288	0	288	－
付 帯 事 業 収 益	77,688	69,917	7,771	111.1
特 別 利 益	653	0	653	－
病院費用	23,366,546	21,772,884	1,593,662	107.3
医 業 費 用	22,889,534	21,383,260	1,506,274	107.0
医 業 外 費 用	185,595	128,581	57,014	144.3
医療奉仕費用	171,483	148,340	23,142	115.6
付 帯 事 業 費 用	116,258	108,700	7,558	107.0
特 別 損 失	2,030	3,725	△ 1,696	54.5
法 人 税 等	1,647	278	1,369	592.1
収支差引額	784,211	1,619,896	△ 835,685	

資本的収入および支出

(単位：千円)

収 入		支 出	
固定負債	146,434	固定資産	1,690,617
資産売却収入	660	借入金等償還	40,925
その他資本収入	1,584,448		
計	1,731,541	計	1,731,541

2 大津赤十字志賀病院

(1) 診療状況の概要

病床数		職 員 数				入院患者数			外来患者数		
許可病床	実働病床	医 師	看 護 師	そ の 他	計	延 人 数	一 日 平 均	一 対 前 年 平 均 比	延 人 数	一 日 平 均	一 対 前 年 平 均 比
(床)	(床)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(%)	(人)	(人)	(%)
143	143	14.7	84.8	58.9	158.4	30,780	84.3	86.5	43,669	181.2	84.4

(2) 医療施設の経営状況

令和7年度の医業収益は、前年に比べて16.6%の減少となりました。内訳は、入院診療収益が19.2%の減少、外来診療収益が14.6%の減少、保健予防活動収益が9.1%の増加でした。対する医業費用は全体で14.0%増加となりました。内訳としては、材料費が32.2 %減少、給与費は28.7%増加しました。給与費は、年度末に本社からの指示によ

る退職給付会計の3億1千万円の戻入がありましたが、対医業収益比では78.4%と高い比率となりました。その結果、医業収支は4億1千2百万円の赤字となり、また、県や大津市保健所による一部補助金事業等もあり、総収支は2億8千1百万円の赤字となりました。

ア 医師及び看護師の確保

令和7年度の医師確保状況につきましては、前年度退職の常勤医師3名の補充ができていない状況です。依然として内科系医師の欠員は解消されておらず、医師の確保は引き続き最優先課題となっております。また、看護師については3名の採用がありましたが、全体で4名の退職があり、年度途中の退職には対応が間に合わず、加えて病気休職や産休等への対応も困難さを増しております。その結果、夜勤対応が可能な看護師の不足が深刻化しております。次年度に向けては医師の確保を最優先にし、看護師の確保にも注力する予定です。

イ 健全経営の推進

全病棟とも病床稼働率は対前年比で6%から8%台の減少傾向となりました。2階）急性期病棟は整形外科及び循環器内科医師の減員により、当該診療科での手術や入院対応が困難となり、年間平均稼働率48.2%となりました。3階）地域包括ケア病棟は、稼働率64.4%、4階）医療型療養病棟についても稼働率61.1%となりました。また、外来診療においても、整形外科と循環器内科の枠が減少し、1日平均患者数が181.2人と前年度の200人台を下回る状況となりました。今後は、病院全体で入院患者の確保に努め、病床稼働率の向上に注力してまいります。

ウ 病院機能のあり方

2025年の超高齢化社会到来に対応するため、2014年度に2病棟の急性期病棟のうち1病棟を地域包括ケア病棟へと改編してケアミックス型機能を充実を図りました。また病床利用率の状況を鑑み、令和7年9月より滋賀県病床数適正化支援事業補助事業を活用し、一部病床数の削減を図りました。これにより、急性期（2階・46床）、回復期（3階・50床）、慢性期（4階・47床）としての届出を行ったうえで運営しております。地域医療構想の動向を注視しながら、当院が有する急性期から慢性期までの機能を最大限に発揮できるよう、救急医療や地域連携に積極的に取り組むとともに、安定した病床運営に努めてまいります。また、行政からの要請に対しても積極的に対応し、外来診療機能の維持や感染症病床の確保などにも取り組んでおります。

エ 施設整備・修繕、医療器械の新規購入・更新

設備整備の面では、老朽化に伴う医療ガス供給装置の更新を実施しました。医療機器関連では、X線テレビシステム、解析心電計（救急外来）の更新、脳血管リハビリ・廃用症候群リハビリの施設基準の（Ⅲ）から（Ⅱ）への引き上げを目的にリハビリ室の整備を行いました。今後も計画的な医療機器の更新や施設の修繕を実施することとしております。

オ 病診連携と介護施設との連携強化

令和7年度における診療所等からの紹介件数は2,987件で前年度より3.8%の減少となり、診察紹介件数は1,145件、またCT・MRI等の検査紹介件数は1,842件となりました。検査結果を迅速に開業医へ返送することを徹底し、信頼の構築に努めてまいりました。また、介護福祉施設との連携については、施設内で急変した利用者の受け入れに関する協定を複数の施設と締結し、連携体制の強化を図りました。

カ 地域住民への情報発信

平成28年度から継続して実施している「志賀日赤の健康教室」を、本年度も和邇文化ホールにて年2回開催しました。そのうち1回は社会福祉協議会志賀ブロックとの共催とし、11月には地域住民との交流の場として「健康いきいき祭り」にも参加いたしました。当院は、血圧測定や骨密度測定などのブースを職員が担当し、来場者の健康チェックを行いました。また、当院発行の広報誌『志賀日赤だより』については、地元自治会のご協力を得ながら、大津市北部地域の全戸配布を継続して実施しております。さらに、地元のまちづくり協議会が運営する「わにコミュニティーバス」の運行に協力するとともに、講演会の依頼を受け、赤十字に関する講演も行いました。

キ 在宅医療への取り組み

訪問診療や訪問リハビリなど、在宅療養への介入を通じて、「住み慣れた自宅や地域で療養したい」という患者・ご家族の希望に応えるべく、医師・看護師・理学療法士等が連携してサービスの提供に取り組みました。訪問診療の年間件数250件は前年度比1.4倍と、医師のマンパワー不足のなかでも当院の提供すべき医療の役割として捉えています。実施した患者やご家族からは、自立支援に向けた丁寧な対応に対し、良好な評価をいただいております。

ク 初期研修医教育及び学生実習

大津赤十字病院より初期研修医の地域医療実習として、1か月交替で13人の研修医を受け入れました。看護学生の病院実習に関しては、令和7年度も引き続き、華頂看護専門学校の学生の実習を受け入れました。

ケ 災害救護活動への参加

災害救護訓練については、第四ブロックでの災害訓練に救護班として参加したほか、日吉台学区で行われた大津市総合防災訓練への参加や院内での災害時傷病者受け入れ訓練を実施しました。

コ 大津市北部過疎地域への医師・看護師の派遣

大津市保険年金課が運営する大津市葛川診療所への医師および看護師派遣を、引き続き実施いたしました。毎週火曜日に医師1人、看護師1人を派遣し、医療空白地域で高齢化が進む葛川地区の住民のいのちと健康を守るため、赤十字としての使命のもと、市からの要請に応じて対応しています。令和8年度も、継続して派遣を行う予定です。

(3) 決算概要

収益的収入および支出

(単位：千円)

科 目	令和7年度決算額	令和6年度決算額	比較増減	対前年度比(%)
病院収益	1,625,318	2,067,075	△ 441,757	-21.4
医 業 収 益	1,474,928	1,768,029	△ 293,101	-16.6
医 業 外 収 益	150,390	299,046	△ 148,656	-49.7
医療社会事業収益	0	0	0	-
付 帯 事 業 収 益	0	0	0	-
特 別 利 益	0	0	0	0
病院費用	1,906,570	1,686,176	220,394	13.1
医 業 費 用	1,887,098	1,654,785	232,313	14.0
医 業 外 費 用	6,932	23,018	△ 16,086	-69.9
医療奉仕費用	12,475	8,169	4,306	52.7
付 帯 事 業 費 用	0	0	0	-
特 別 損 失	65	204	△ 139	-68.1
法 人 税 等	0	0	0	-
収支差引額	△ 281,252	380,899	△ 662,151	

資本的収入および支出

(単位：千円)

収 入		支 出	
固定負債	9,511	固定資産	33,107
資産売却収入	0	借入金等償還	123
その他資本収入	23,719		
計	33,230	計	33,230

3 長浜赤十字病院

(1) 診療状況の概要

病床数		職 員 数				入院患者数			外来患者数		
許可病床	実働病床	医 師	看護 師	そ の 他	計	延 人 数	一 日 平 均	一 日 対 前 年 平 均 比	延 人 数	一 日 平 均	一 日 対 前 年 平 均 比
(床)	(床)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(%)	(人)	(人)	(%)
486	449	106.5	571.1	267.6	945.2	138,724	380.1	104.1	232,407	960.4	100.2

(2) 医療施設の経営状況

ア 収支の推移

令和7年度の医業収益は、新入院患者数の増加、入院診療単価の増加、また診断群分類包括評価（DPC）を意識した入院期間の適正化により前年度と比較して6億6千万円の増加となりました。また、医業外収益については、例年の補助金に合わせて、あらたに医療機関等物価高騰対策支援金等の交付があったことにより前年度と比較して7千9百万円の増加となりました。

一方、医業費用については前年度と比べて1億2千万円の増加となりました。材料費については、入院患者数の増加及び物価高騰の影響で前年度と比較して1億1千万円増加となりました。給与費については、看護職員数の減少により、前年度と比較して8百万円減少、委託費については、最低賃金の上昇により前年度と比較して4千4百万円の増加となりました。

なお、令和7年度は昨年同様、退職給付債務において多額の給与費の戻入が生じました。この影響を受けて、医業収支は12億4千万円の黒字決算となり、総収支においては16億1千万円の黒字決算となりました。

イ 患者数と病床利用率の推移

延入院患者数は前年度133,312人から138,724人と大幅に増加。新入院患者数も前年度10,720人から11,161人と今まででもっとも多い数となりました。これにより病床稼働率は80.3%（令和6年度）から83.6%へと大幅に上昇しました。

ウ 診療単価の推移

入院診療単価は、69,573円で対前年度比1,494円増加となりました。

外来診療単価は、15,747円で対前年度比314円増加となりました。

エ 主な取り組み

① 経営健全化の推進

地域の医療機関との連携体制を図るとともに湖北地域の中核病院として急性期医療を推進し、安心安全な医療の提供・地域住民のニーズに応えるべく、救急医療・災害救護体制等の充実を図るとともに、健全な病院経営に努めました。特にDPC期間に応じた適切な入院日数を意識し、ベッドコントロールを強化することで病床稼働率の向上を実現しました。また、働き方改革に伴う業務等の見直しを行い、物品購入に関しては不要不急の経費節減に努めました。

1. 新入院患者数	11,161人	2. 平均在院日数	11.6日
3. 病床稼働率	83.6%	4. 紹介患者数	17,586人
5. 紹介率、逆紹介率	66.4%、68.5%	6. 救急搬送入院率	44.3%
7. 手術件数	4,272件	8. 全身麻酔件数	2,276件

② 原子力災害医療の強化

基幹原子力災害拠点病院である当院は、滋賀県原子力防災訓練にコントローラーを派遣しました。院内原子力防災訓練では、災害対策本部を設置、被ばく傷病者の受入や他院派遣チームと連携した医療・除染訓練を実施しました。

また、県内拠点病院等に対し、対面研修2回とeラーニング1回を実施し、防護衣着脱訓練等を通じ対応力を強化しました。なお、対面での基礎研修を実施している病院は全国で当院だけとなっています。さらに各種専門研修への派遣や、広島大学の協力による測定・派遣チーム研修を通じて、人材育成及び原子力災害医療の対応能力向上に努めました。

③災害救護体制の充実

院内大規模災害訓練では学生59人を傷病者役としてトリアージ・診察を実施し、多数傷病者発生時を想定した実践的な対応力の向上を図りました。あわせて、院内外の関係部署・機関との連携のもと、患者搬送の調整や情報共有手段の検証を行い、災害発生時における指揮命令系統や連携体制の強化に努めました。また、DMAT・DPATの拠点本部を設置・運用し、地域の医療機関や福祉施設の被災状況を迅速に収集・分析するとともに、医療支援の調整や患者搬送のコーディネートを担当しました。

また、各種研修や外部訓練への参加・派遣を通じて人材育成を進め、DMAT隊員3人と災害医療コーディネーター1人を養成し、地域全体の対応力向上に寄与しました。さらに、地域住民や関係機関への講習・啓発や医療資機材・備蓄の整備を進め、防災意識の向上と備えの充実を図り、地域の災害対応強化に貢献しました。

④ドクターカー事業

令和7年度は出勤件数が384件（前年度比約15%増）となり、救急需要の高まりに対応して積極的な運用を行いました。また、新たに高島市と協定を締結し、活動範囲の拡大と地域における出動体制の強化を図りました。出動時には、医師・看護師が現場に早期介入し、迅速な診断・初期治療により救命率向上と後遺障害の軽減に寄与しました。あわせて、円滑な引継ぎを行い、搬送後の治療につながる体制を確保しました。

さらに、関係機関との症例検討や運用検証を通じて継続的に改善を図り、ドクターカーの効果的な運用体制を強化するとともに、地域の救急医療の質の向上に貢献しました。

⑤児童・思春期精神科病床の整備

近年増加傾向にある児童思春期の精神・心理的課題への対応といった地域ニーズを踏まえ、児童・思春期精神科病床の開設に向け、院内体制の整備や運用方針の検討、人材確保等の準備を進めました。あわせて、児童が安心して療養できる環境整備を目的とした施設整備工事を実施し、受入体制の充実に向けた基盤整備を推進しました。

(3) 施設等整備

施設整備としては、手術室の空調システム・給水井戸ポンプの更新を行いました。機器整備としては、医療用器械備品を一部補助金を財源とし、救急車仕様のベッドサイドモニター、心臓マッサージシステム、人工呼吸器（滋賀県災害・感染症医療従事者派遣設備整備補助金）他4点を整備し、自己資金にて人工関節手術支援ロボットや体重モニタ付保育器など全45点を整備しました。

その他器械備品としては、離床センサー付き電動ベッド（98台）や衛星電話ワイドスターⅢなどを整備し、ソフトウェアとしては、RPAシステムを導入するなど事務作業の生産性向上のための整備を実施しました。

(4) 決算概要

収益的収入および支出

(単位：千円)

科 目	令和7年度決算額	令和6年度決算額	比較増減	対前年度比 (%)
病院収益	14,355,597	13,612,494	743,103	105.5
医 業 収 益	13,746,485	13,077,895	668,590	105.1
医 業 外 収 益	517,560	438,038	79,522	118.2
医療社会事業収益	5,238	4,884	354	107.2
付 帯 事 業 収 益	86,314	91,677	△ 5,363	94.2
特 別 利 益	0	0	0	—
病院費用	12,738,501	12,603,124	135,377	101.1
医 業 費 用	12,501,960	12,382,908	119,052	101.0
医 業 外 費 用	22,524	16,500	6,024	136.5
医療奉仕費用	136,317	124,346	11,971	109.6
付 帯 事 業 費 用	77,446	77,392	54	100.1
特 別 損 失	254	1,978	△ 1,724	12.8
法 人 税 等	0	0	0	—
収支差引額	1,617,096	1,009,370	607,726	

資本的収入および支出

(単位：千円)

収 入		支 出	
固定負債	16,235	固定資産	457,144
資産売却収入	0	借入金等償還	512,444
その他資本収入	953,353		
計	969,588	計	969,588

Ⅲ 血液事業概要

滋賀県赤十字血液センター

血液製剤の均質性・安全性の向上と安定供給の促進及び事業効率の改善を通じた健全な経営基盤の構築を目的として広域血液事業運営体制が導入され、近畿ブロック血液センターの令和7年度事業方針に基づき事業を遂行しました。

特に、将来にわたって安定供給を維持していくためには、10代、20代、30代の若年層献血者数を増加させていく必要があります。若年層からの献血への理解を得るために、同世代の学生献血推進協議会や各種学生団体と最大限に連携し、初回献血者、複数回献血者数の確保を積極的に行いました。

医療機関から発注される赤血球製剤の95%以上が400mL製剤であることから、400mL献血を推進した結果、全血献血に占める400mL献血の比率は96.6%となりました。あわせて、稼働数の増加は採血本数の増加に直結し財政基盤の安定化に不可欠であることから、前年度に引き続き高い水準での稼働数維持を目指した結果、移動採血の稼働数は729稼働となり、前年度の737稼働とほぼ同数になりました。

本年度の献血者数は52,730人、前年度比98.9%となりました。輸血用血液製剤の供給数は169,347単位で前年度に比べ101.5%となりました。

滋賀県は全血献血に優位な採血環境であり、全血献血については県内需要を上回る採血を行いました。また、成分採血における自給率は低いものの、分割血小板採血の増加等により、県内医療機関には安定的に輸血用血液製剤を供給しました。

(1) 献血及び供給状況の推移

年 度	献 血 状 況		供 給 状 況	
	献血者数（人）	対前年度比（％）	供給数（単位）	対前年度比（％）
令和3年度	51,368	96.6	171,170	106.3
令和4年度	53,164	103.5	163,576	95.6
令和5年度	54,421	102.4	174,991	107.0
令和6年度	53,298	97.9	166,763	95.3
令和7年度	52,730	98.9	169,347	101.5

(2) 令和7年度採血の実績

献血者数

	計画（人）	実績（人）	達成率（％）	対前年度比（％）
200mL献血	553	1,464	264.7	107.6
400mL献血	42,123	41,842	99.3	98.4
血漿献血	5,156	4,398	85.3	96.1
血小板献血	4,568	5,026	110.0	104.0
計	52,400	52,730	100.6	98.9

※400比（全血献血に占める400mL献血の比率） 96.6％（令和6年度：96.9％）

(3) 令和7年度供給の実績

供給（県内医療機関への供給単位数）

	計画（単位）	実績（単位）	達成率（％）	対前年度比（％）
全血製剤	0	0	－	－
赤血球製剤	64,000	65,104	101.7	100.2
血漿製剤	17,000	15,558	91.5	84.9
血小板製剤	85,000	88,685	104.3	106.3
計	166,000	169,347	102.0	101.5

※血液製剤は、200mL相当を1単位とした換算数である。

(4) 滋賀県における献血／供給比率

赤血球製剤

年 度	献血（単位）	供給（単位）	献血／供給（％）
令和3年度	78,401	64,270	122.0
令和4年度	83,886	64,090	130.9
令和5年度	87,270	67,994	128.3
令和6年度	86,413	64,967	133.0
令和7年度	85,148	65,104	130.8

血小板製剤

年 度	献血（本）	供給（本）	献血／供給（％）
令和3年度	4,930	8,684	56.8
令和4年度	4,807	8,148	59.0
令和5年度	4,890	8,793	55.6
令和6年度	4,835	8,304	58.2
令和7年度	5,026	8,952	56.1

※平成26年度より血小板高単位献血（20単位）からの分割製剤（10単位2本）施行

(5) 献血推進の取組み

ア 愛の血液助け合い運動

7月1日から31日まで、国・県・日本赤十字社の主催により、多数の後援団体、協賛団体の協力を得て全国一斉に行われました。当県では例年「献血功労者表彰式」を開催しており、令和7年度は7月23日にピアザ淡海ピアザホールにて開催しました。

イ 全国学生献血キャンペーン

滋賀県学生献血推進協議会が7月に「学生サマー献血キャンペーン」をJR近江八幡駅において、12月に「全国学生クリスマス献血キャンペーン」を石山商店街およびJR近江八幡駅においてそれぞれ開催しました。血液が不足する時期でのキャンペーンは効果的であり、大学生たちが同年代の若者に献血への理解と協力を呼びかけました。

ウ はたちの献血キャンペーン

1月1日から2月28日まで、(社)日本民間放送連盟・(社)日本民営鉄道協会・(社)日本コミュニティ放送協会の後援を得て実施しました。本年度は「誰かのために」が、まぶしく見えた日。」篇と題したテレビCMやラジオCM・WebCMを作成し、献血啓発活動に取り組みました。

エ 若年層対策事業

＜献血セミナーの強化＞

高校生に対する献血推進を重点的に進めるため、高校生を対象とした献血セミナーを26回実施しました（令和6年度は19回）。従来型の一方向的なセミナーではなく、献血に関するスピーチを学生に考えてもらうような双方向セミナーも実施しました。

また、滋賀県赤十字血液センターは若年層確保対策事業として、滋賀県と協働した取り組みを行っています。

＜キャンペーンの実施＞

計3回、学生を対象としたキャンペーンを実施しました。

- 期 間：7月～8月
対 象：学生（先着500人）
記念品：電動歯ブラシ
主 催：滋賀県
- 期 間：9月～11月
対 象：学生（先着800人）
記念品：ランチトートバッグ
主 催：血液センター
- 期 間：12月～3月
対 象：高校生（先着1,100人）
記念品：電動歯ブラシ
主 催：滋賀県